

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

第3章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。

第4章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5
商標および著作権について	8
第 1 章 各部名称	
1 各部の名称と働き	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体上面	13
パソコン本体右側面	14
パソコン本体左側面	15
パソコン本体背面	17
パソコン本体下面	18
ポトリプリケーター	19
FDD ユニット (USB)	21
2 状態表示について	22
状態表示 LCD について	22
状態表示 LED について	23
3 タブレットボタンについて	24
4 セキュリティボタンについて	26
第 2 章 ハードウェア	
1 パソコンの疲れにくい使い方	28
ディスプレイ	28
使用時間	29
入力機器	29
机と椅子	29
作業スペース	29
2 周辺機器を取り付ける前に	30
取り扱い上の注意	30
3 ポインティングデバイスについて	31
フラットポイントについて	31
マウスについて	33
タブレットについて	37
ペン先の交換方法	39
4 キーボードについて	40
OADG キーボード	40
テンキーボード	43
5 バッテリーについて	44
バッテリーを充電する	44

バッテリーで運用する	45
バッテリー残量を確認する	46
取り扱い上の注意	48
バッテリーパックを交換する	49
6 モバイルマルチベイについて	51
取り扱い上の注意	51
使用できるユニット	51
ユニットを交換する	52
7 液晶ディスプレイの回転について	54
8 ポートリプリケータについて	56
ポートリプリケータを取り付ける	56
ポートリプリケータを取り外す	57
9 CD / DVD について	58
取り扱い上の注意	58
使用できるディスク	61
ディスクをセットする／取り出す	62
10 フロッピーディスクについて	65
取り扱い上の注意	65
FDD ユニット (USB) の取り付け／取り外し	66
フロッピーディスクをセットする／取り出す	67
11 メモリについて	69
メモリを取り付ける／取り外す	69
12 PC カードについて	74
取り扱い上の注意	74
PC カードをセットする	74
PC カードを取り出す	76
13 メモリーカードについて	79
取り扱い上の注意	79
使用できるメモリーカード	79
メモリーカードをセットする	80
メモリーカードを取り出す	81
14 スマートカードについて	83
取り扱い上の注意	83
スマートカードをセットする	84
スマートカードを取り出す	85
スマートカードによるロックの設定	86
15 プリンタについて	90
接続について	90
16 外部ディスプレイについて	91
接続について	91
17 ハードウェアのお手入れ	94
パソコン本体のお手入れ	94
液晶ディスプレイのお手入れ	94

キーボードのお手入れ	95
マウスのお手入れ	95
フロッピーディスクドライブのお手入れ	97

第3章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	100
2 BIOS セットアップの操作のしかた	101
BIOS セットアップを起動する	101
設定を変更する	102
各キーの役割	103
BIOS セットアップを終了する	104
3 メニュー詳細	105
メインメニュー	105
詳細メニュー	106
セキュリティメニュー	108
起動メニュー	110
情報メニュー	111
終了メニュー	111
4 BIOS のパスワード機能を使う	113
パスワードの種類	113
パスワードを設定する	113
パスワードを忘れてしまったら	116
パスワードを変更／削除する	116
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	118
メッセージが表示されたときは	118
メッセージ一覧	119

第4章 技術情報

1 仕様一覧	126
本体仕様	126
2 コネクタのピン配列と信号名	130

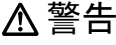
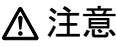
索引	133
-----------------	-----

本書をお読みになる前に




本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

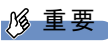

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
      ↑ ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、**【Space】**キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD/DVD ドライブのドライブ名を、**【CD/DVD ドライブ】**で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：**【CD/DVD ドライブ】**:¥setup.exe

■ 操作方法の記載

本文中では、操作方法を「クリック」と表記しています。

タブレットをお使いになる場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えてください。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「言語（Language）」の項目を「日本語（JP）」に設定します。

↓

「メイン」-「言語（Language）」：日本語（JP）

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ フロッピーディスクの使用について

本文中の操作手順において、フロッピーディスクを使用することがあります。

フロッピーディスクドライブが必要な操作では、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、富士通パソコン情報サイト「FMWORLD.NET」内にあるFMV-LIFEBOOKの「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

また、周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種、または OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
FMV-T8210	T8210	本パソコン パソコン本体	
FMV-H8210	H8210		
FMV-E8210	E8210		
FMV-E8110	E8110		
FMV-C8210	C8210		
FMV-S8215	S8215		
FMV-S8210	S8210		
FMV-B8210	B8210		
FMV-C6210	C6210 バリュースライン		
FMV-J6210	J6210 バリュースライン		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition		
Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP Tablet PC Edition 2005		
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000		
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP		
Microsoft® Office Excel 2003	Excel 2003		
Norton AntiVirus™ 2005	Norton AntiVirus		
Roxio DigitalMedia SE	Roxio DigitalMedia		
InterVideo WinDVD™ 5	WinDVD		
Adobe® Reader™ 7.0	Acrobat Reader		
Intel® SpeedStep® Technology Applet	Intel SpeedStep		
StandbyDisk 2000-XP Pro	StandbyDisk		
Sony FeliCa リーダー/ライターソフトウェア	FeliCa リーダー/ライターソフトウェア		
ExpressCard™/34 モジュール ExpressCard™/54 モジュール	ExpressCard		

■ モデルの表記

本文中のモデルを、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いのモデル以外の情報もありますが、ご了承ください。

モデル	本文中の表記	
インテル® Pentium® M プロセッサ搭載	Pentium® M 搭載モデル	
13 型 WXGA 搭載	13 型 WXGA 搭載モデル	
14.1 型 XGA 搭載	14.1 型 XGA 搭載モデル	
15 型 XGA 搭載	15 型 XGA 搭載モデル	
14.1 型 SXGA + 搭載	14.1 型 SXGA + 搭載モデル	
15 型 SXGA + 搭載	15 型 SXGA + 搭載モデル	
モデム搭載	モデム搭載モデル	
有線 LAN 搭載	有線 LAN 搭載モデル	LAN 搭載モデル
Gigabit Ethernet 搭載	Gigabit Ethernet 搭載モデル	
ワイヤレス LAN (無線 LAN) 搭載	ワイヤレス LAN 搭載モデル	
タッチパネル搭載	タッチパネル搭載モデル	
指紋センサー搭載	指紋センサー搭載モデル	
FeliCa 対応リーダ/ライタ搭載	FeliCa 対応リーダ/ライタ搭載モデル	
セキュリティチップ搭載	セキュリティチップ搭載モデル	
セキュリティボタン搭載	セキュリティボタン搭載モデル	
スマートカードホルダー添付	スマートカードホルダー添付モデル	

■ お問い合わせ先 / URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2005 年 10 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください (→『取扱説明書』)。

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 インテル、Intel、Pentium、Celeron、Intel SpeedStep Intel Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
 Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。
 FeliCa は、ソニー株式会社の登録商標です。
 FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。
 ExpressCard™、ExpressCard™ ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association (PCMCIA) の商標で富士通へライセンスされています。
 IntelliSonic は、Knowles Electronics, LLC (米国) の登録商標です。
 その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
 その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2005
 画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

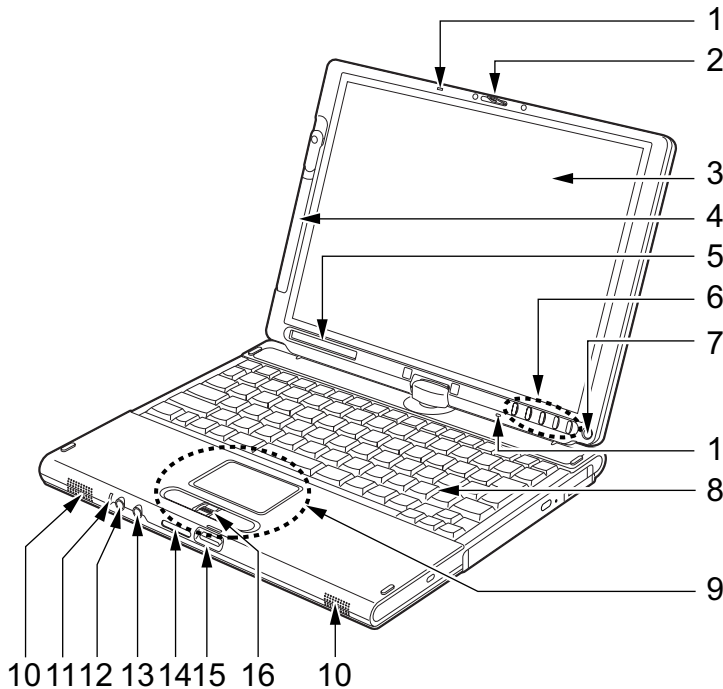
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	10
2 状態表示について	22
3 タブレットボタンについて	24
4 セキュリティボタンについて	26

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面



(イラストは状況により異なります)

1 内蔵マイク

音声を録音できます。

POINT

- ▶ マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」(消音)にしてください(『ソフトウェアガイド』の「機能」-「音量の設定」)。
- ▶ 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

2 ラッチ

液晶ディスプレイが不用意に開かないようにロックします。

3 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

液晶ディスプレイを回転させると、タブレットモードとしてお使いになります。

「ハードウェア」－「液晶ディスプレイの回転について」(→ P.54)

POINT

▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

4 ペン

タッチパネルを操作するペンが収納されています。

「ハードウェア」－「タブレットについて」(→ P.37)

5 状態表示 LCD

本パソコンの状態が表示されます。

「各部名称」－「状態表示について」(→ P.22)

6 タブレットボタン／セキュリティボタン

ボタンを押すだけで、アプリケーションの起動などを行うことができます。

また、添付のアプリケーション「セキュリティボタン」をインストールするとセキュリティボタン機能を使用することができます。(→『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」)。

添付のアプリケーション「セキュリティボタン」でパスワードを設定することにより、ユーザ認証を行うことができます。

「各部名称」－「セキュリティボタンについて」(→ P.26)

7 電源ボタン (⏻)

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのボタンです。

POINT

▶ 電源ボタンを4秒以上押さないでください。

電源ボタンを4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

8 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.40)

9 フラットポイント

マウスポインタを操作します。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」(→ P.31)

10 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

『ソフトウェアガイド』の「機能」－「音量の設定」

POINT

- ▶ 音量はスピーカーから聞こえる音が歪まない範囲に設定や調整をしてください。スピーカーが故障する原因となります。

11 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「各部名称」－「状態表示について」(→ P.22)

12 ヘッドホン端子 (🎧)

市販のヘッドホンを接続するための端子です (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠️ 注意

- ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

13 マイク端子 (🎤)

市販のマイクを接続し、音声 (モノラル) を録音するための端子です (外径 3.5mm のミニプラグに対応)。

ただし、市販されているマイクの一部の機種 (ダイナミックマイクなど) には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

14 SD カード / メモリースティックスロット

SD メモリーカード、またはメモリースティックをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」－「メモリーカードをセットする」(→ P.80)

15 リリースボタン

液晶ディスプレイを開くときは、押してロックを外します。

16 指紋センサー

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます (→ 『ソフトウェアガイド』の「セキュリティ」－「指紋センサー」)。

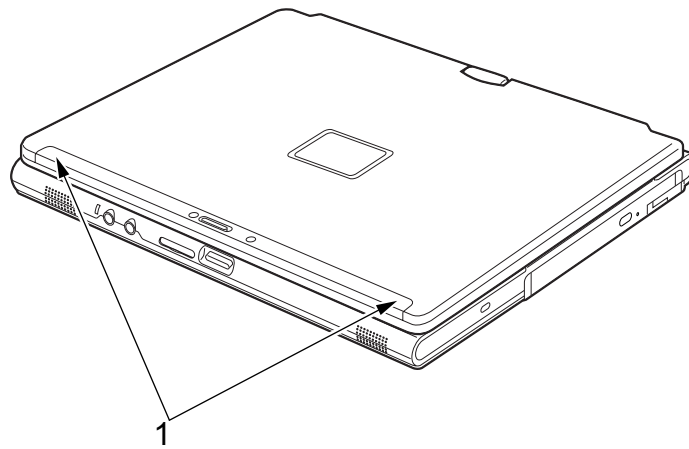
また、スクロール機能を使って画面を上下にスクロールさせることもできます。

「ハードウェア」－「ポインティングデバイスについて」(→ P.31)

POINT

- ▶ 指紋センサーのスクロール機能をお使いになるには、指紋センサードライバが必要です。本パソコンにはプレインストールされています (→ 『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」)。
- ▶ お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーのスクロール機能による画面のスクロールが出来ない場合があります。

パソコン本体上面



1 内蔵ワイヤレス LAN アンテナ

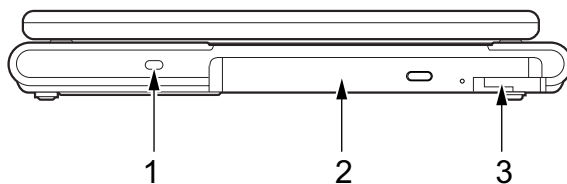
ワイヤレス LAN 用のアンテナが内蔵されています。

本パソコンの使用時、特にワイヤレス LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

POINT

- ▶ ワイヤレス LAN については『FMV マニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルをご覧ください。

パソコン本体右側面



1 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

2 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ

CD-ROM/R/RW、または DVD-ROM の情報を読み出したりできます。

「ハードウェア」 - 「CD / DVD について」 (→ P.58)

ユニットは交換することができます。

「ハードウェア」 - 「モバイルマルチベイについて」 (→ P.51)

重要

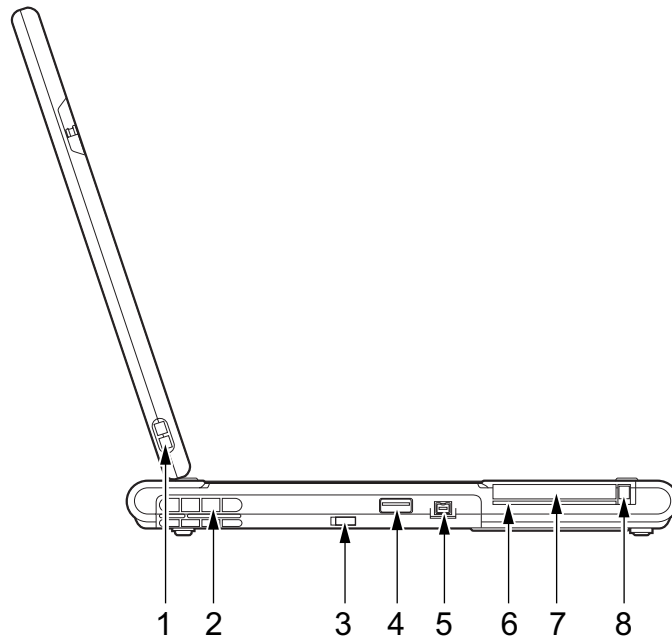
- ▶ モバイルマルチベイに何も取り付けしていない状態では、本パソコンを使用しないでください。故障の原因となります。

3 ベイユニット取り外しレバー

モバイルマルチベイに取り付けられているユニットを取り外す場合にレバーを起こします。

「ハードウェア」 - 「モバイルマルチベイについて」 (→ P.51)

パソコン本体左側面



重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 ペンひも取り付け用穴

ペンひもを本体に取りつけるための穴です。

2 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコンの冷却のためであり、異常ではありません。

注意



- 排気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

重要

- ▶ 排気孔からは熱風がでます。排気孔付近には手を触れないでください。
- ▶ 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。

3 ワイヤレススイッチ

ワイヤレス LAN による通信機能の ON と OFF を切り替えます。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

POINT

- ▶ ワイヤレス LAN については、『FMV マニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルをご覧ください。

4 USB コネクタ (🔌)

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ▶ ハブなどを経由して USB2.0 に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

5 IEEE1394 端子 (🔌)

IEEE1394 規格の周辺機器を接続するコネクタです。

6 スマートカードスロット (🗂️)

スマートカードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」 - 「スマートカードをセットする」 (→ P.84)

7 PC カードスロット (🗂️)

お使いになる PC カードをセットするためのスロットです。

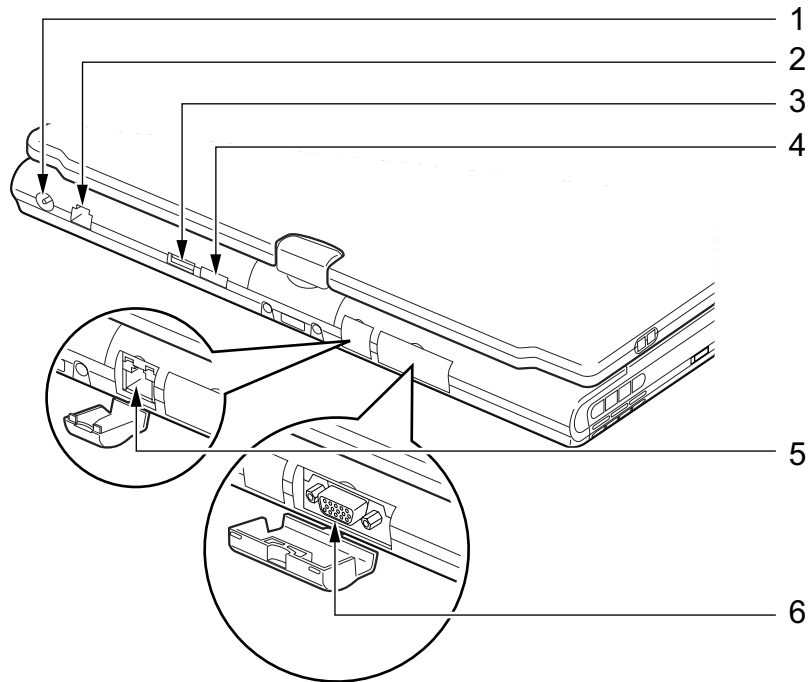
「ハードウェア」 - 「PC カードをセットする」 (→ P.74)

8 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

「ハードウェア」 - 「PC カードを取り出す」 (→ P.76)

パソコン本体背面



(イラストは状況により異なります)

重要

▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 DC-IN コネクタ (==)

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

2 モデムコネクタ (☐)

モジュラーケーブルを接続するためのコネクタです。

POINT

▶ 内蔵モデムについては、『FMV マニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルをご覧ください。

3 USB コネクタ (≡)

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。


USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

4 赤外線通信ポート

赤外線通信を行うためのインターフェースです。

POINT

- ▶ 赤外線通信ポートは、「ワイヤレスリンク」でお使いになれます。
- ▶ 赤外線通信を行っているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。
- ▶ 赤外線通信は、プラズマディスプレイやプラズマカラーテレビの側では行わないでください。本パソコンが正常に動作しない場合があります。

5 LAN コネクタ ()

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

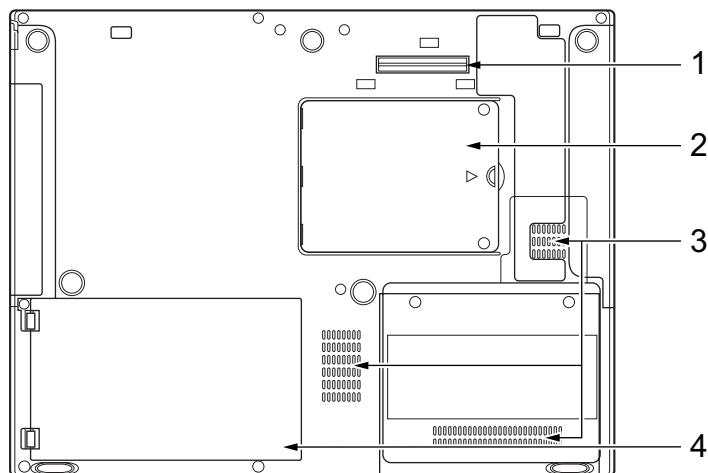
ポータリプリケーター接続時には、ポータリプリケーターのLANコネクタをお使いください。
『ソフトウェアガイド』の「機能」－「LANについて」

6 外部ディスプレイコネクタ ()

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

ポータリプリケーター接続時には、ポータリプリケーターの外部ディスプレイコネクタをお使いください。

「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」(→ P.91)

パソコン本体下面**1 ポータリプリケーター接続コネクタ**

ポータリプリケーターを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」－「ポータリプリケーターについて」(→ P.56)

2 拡張 RAM モジュールスロット

本パソコンのメモリをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」－「メモリについて」(→ P.69)

3 吸気孔

空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意



- 吸気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

4 内蔵バッテリーパック

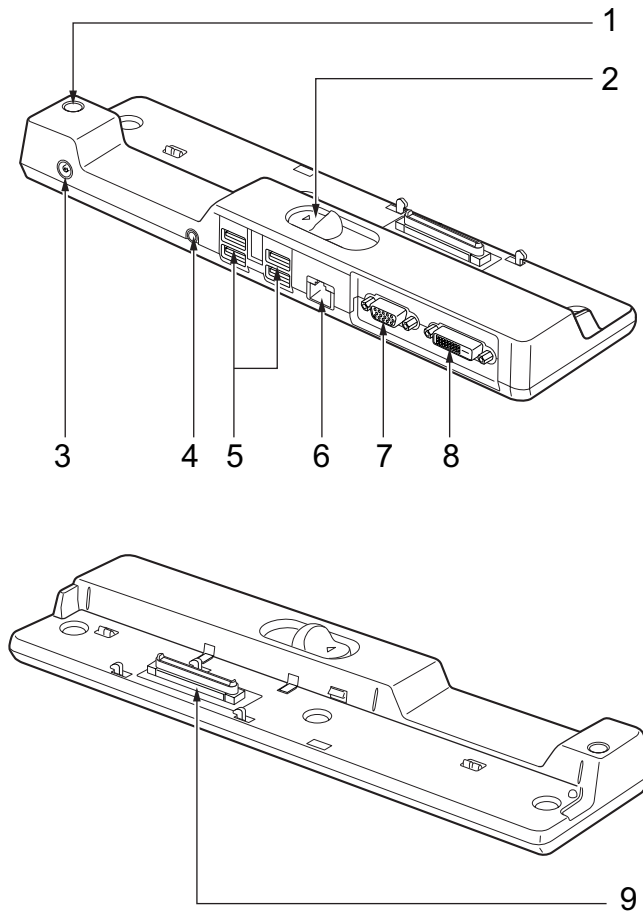
内蔵バッテリーパックが装着されています。

「ハードウェア」－「バッテリーパックを交換する」(→ P.49)

ポートリプリケータ

👉 重要

- ▶ 本パソコンには、ポートリプリケータは添付されておりません。
お使いになる場合は、別売のポートリプリケータをご購入ください。



重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ▶ ポートリプリケータ接続時には、パソコン本体の LAN コネクタ、外部ディスプレイコネクタはお使いになれません。

1 電源ボタン (⏻)

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ (中断) / レジューム (回復) させるためのボタンです。

POINT

- ▶ 電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。
電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

2 ポートリプリケータ取り外しレバー

ポートリプリケータをパソコン本体から取り外す場合に使用します。

3 DC-IN コネクタ (==)

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

4 ラインアウト端子 (Ⓛ)

AV 機器などの入力 (LINE IN) 端子と接続するためのアナログ出力 (LINE OUT) 端子です (外径 3.5mm のステレオミニプラグに対応)。

5 USB コネクタ (≡)

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。4 ポートあります。パソコン本体とあわせて 6 ポートお使いになれます。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ▶ ハブなどを經由して USB2.0 に対応した機器を接続した場合、ハブの性能によって接続した機器の性能が低下することがあります。

6 LAN コネクタ (Ⓛ)

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

『ソフトウェアガイド』の「機能」－「LAN について」

7 外部ディスプレイコネクタ (アナログ) (Ⓛ)

アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」(→ P.91)

8 外部ディスプレイコネクタ (デジタル)

DVI-D に対応したデジタルディスプレイを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」(→ P.91)

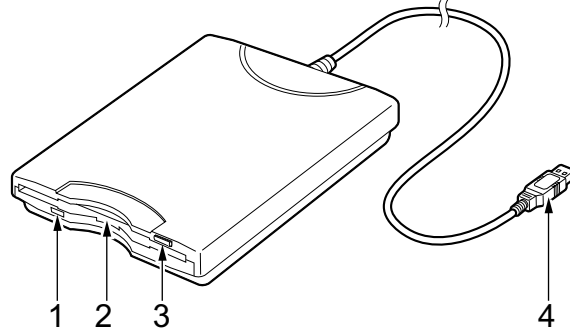
9 接続コネクタ

パソコン本体のポートリプリケータ接続コネクタに接続します。

FDD ユニット (USB)

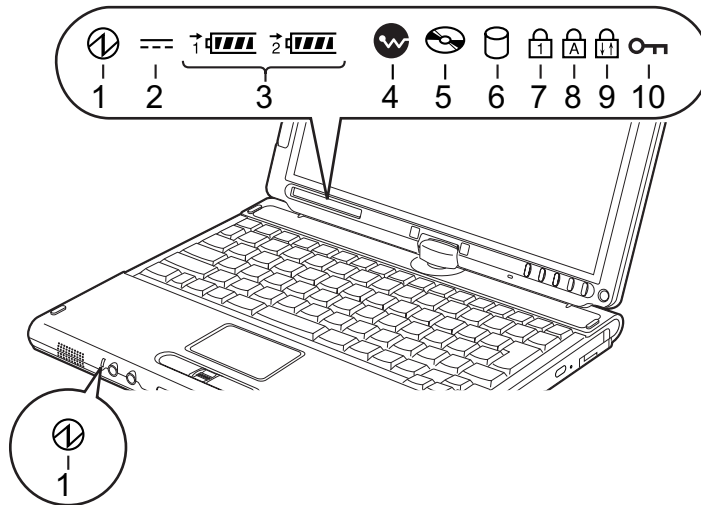
重要

- ▶ 本パソコンには、FDD ユニット (USB) は添付されていません。
お使いになる場合は、別売の FDD ユニット (USB) をご購入ください。



- 1 アクセスランプ**
フロッピーディスクドライブの動作中に点灯します。
- 2 フロッピーディスクドライブ**
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりします。
「ハードウェア」－「フロッピーディスクをセットする／取り出す」(→ P.67)
- 3 フロッピーディスク取り出しボタン**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。
- 4 接続コネクタ**
パソコン本体または、ポートリプリケータと接続するコネクタです。
「ハードウェア」－「FDD ユニット (USB) の取り付け／取り外し」(→ P.66)

2 状態表示について



(イラストは状況により異なります)

状態表示 LCD について

POINT

▶ 電源を切っている場合は、充電中を除いて状態表示 LCD の全表示が消灯します。

1 電源表示 (⏻)

本パソコンが動作状態のときに点灯し、スタンバイのときに点滅します。

2 AC アダプタ表示 (≡)

ACアダプタから電源が供給されているときに点灯します。

3 ・バッテリー装着表示 (1 [] 2 [])

バッテリーが取り付けられているときに点灯します。

・バッテリー充電表示 (→)

バッテリーを充電しているときに点灯します。

「ハードウェア」－「バッテリーを充電する」(→ P.44)

・バッテリー残量表示 (||||)

バッテリーの残量を表示します。


「ハードウェア」－「バッテリー残量を確認する」(→ P.46)

4 ワイヤレス LAN 表示 (📶)

ワイヤレススイッチが ON のときに点灯します。

5 CD アクセス表示 (📀)

CD や DVD などにアクセスしているときに点灯します。

6 ハードディスクアクセス表示 ()

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

POINT

- ▶ ハードディスクアクセス表示が点灯中に、電源ボタンを操作すると、ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

7 Num Lock 表示 ()

キーボードがテンキーモードのときに点灯します。【NumLk】キーを押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.40)

8 Caps Lock 表示 ()

アルファベットのの大文字入力モードのときに点灯します。

【Shift】＋【Caps Lock】キーを押して、アルファベットのの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。


「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.40)

9 Scroll Lock 表示 ()

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

【Fn】＋【NumLk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、アプリケーションに依存します。

10 セキュリティ表示 ()

添付の「セキュリティボタン」でパスワードを設定している場合、パスワード要求時に点灯します。パソコン本体の電源を入れたときやレジューム時にセキュリティ表示が点灯したらパスワードを入力してください。

状態表示 LED について

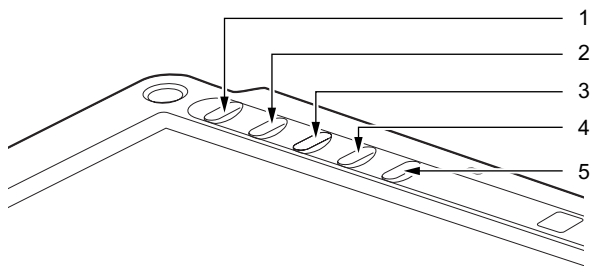
1 電源ランプ

本パソコンの状態を表示します。

LED 表示	パソコン本体の状態
緑色点灯	動作状態
緑色点滅	スタンバイ
消灯	電源 OFF または休止状態

3 タブレットボタンについて

タブレットボタンは、パソコンの各種機能呼び出すためのボタンです。ボタンを押すだけでアプリケーションの起動などが行えます。



	ボタン	機能
1	セキュリティボタン	2秒以上押し続けると、キーボードで【Ctrl】+【Alt】+【Del】キーを押したときの動作をします。
2	Fn ボタン	このパソコン独自のボタンです。2回押すと本パソコンを使用するのに便利な「富士通メニュー」が表示されます。
3	ローテーションボタン	画面の縦横の表示を切り替えます。
4	Page Up ボタン	前のページに切り替えるときに使います。
5	Page Down ボタン	次のページに切り替えるときに使います。

POINT

- ▶ 「富士通メニュー」はディスプレイの明るさの設定や、音量の設定などの各種設定を、簡単に行えるメニューです。
- ▶ 「富士通メニュー」は必要に応じてファイルやアプリケーションの起動を追加登録することができます。
 1. 「Fn」ボタンを2回押します。
「富士通メニュー」が表示されます。
 2. 「富士通メニューの設定」をタップします。
「富士通メニューの設定」ウィンドウが表示されます。
 3. 「追加」ボタンをタップします。
「メニューアイテムの設定」ウィンドウが表示されます。
 4. 画面の指示に従い、「名前」と「ファイル」を入力して、「OK」をタップします。
 5. 「OK」をタップします。
 6. 「「富士通メニュー」の設定は保存されました。」と表示されたら、「OK」をタップします。
- ▶ ボタンパネルを無効にしている場合、「Fn」ボタンを2回押しても「富士通メニュー」は表示されません。この場合、通知領域の「富士通メニュー」アイコンをダブルクリックすることで表示させることができます。
通知領域に「富士通メニュー」アイコンが表示されない場合は、「C:\¥Program Files¥Fujitsu¥Utils¥FjMenu.exe」を実行して「富士通メニュー」を表示させてください。

「Fn」 ボタンを押した後他のボタンを押すと、次のような機能で使うことができます。

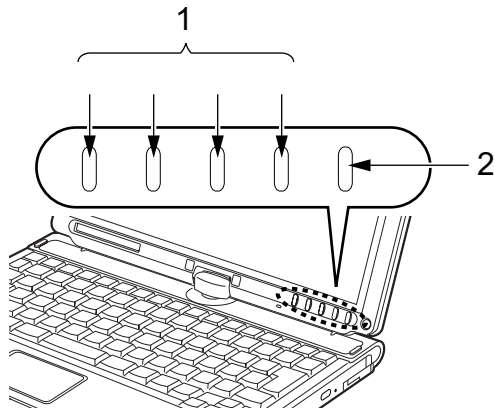
ボタン	機能
Page Up ボタン	Windows Journal が起動します。
Page Down ボタン	電卓が起動します。

POINT

- ▶ 「Fn」 ボタンを押しながら、「Page Down」 ボタンまたは「Page Up」 ボタンを押したときに割り当てられている機能を変更できます。
 1. 「スタート」 ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をタップします。
「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウが表示されます。
 3. 「タブレットとペンの設定」をタップします。
「タブレットとペンの設定」ウィンドウが表示されます。
 4. 「タブレットのボタン」タブをタップします。
「タブレットボタン」の一覧で、変更したいタブレットボタンの名前をタップします。
 5. 「変更」をタップしてタブレットボタンの設定を変更します。
- ▶ 変更したタブレットボタンの設定が有効になるのは、再起動後です。
- ▶ すべてのタブレットボタンを変更できるわけではありません。
- ▶ コントロールパネルの「タブレットとペンの設定」ウィンドウは、通知領域にある「タブレットとペンの設定を変更します」をダブルタップしても表示できます。

4 セキュリティボタンについて

セキュリティボタンには、「数字ボタン」と「Enter ボタン」があります。



1 数字ボタン

パスワードを入力するときに押します。

2 Enter ボタン

パスワードを設定するとき、または入力したパスワードを確定してセキュリティを解除するときに押します。

POINT

- ▶ セキュリティボタンについては『FMV マニュアル』内の「カスタムメイドオプション」をご覧ください。

第2章

ハードウェア

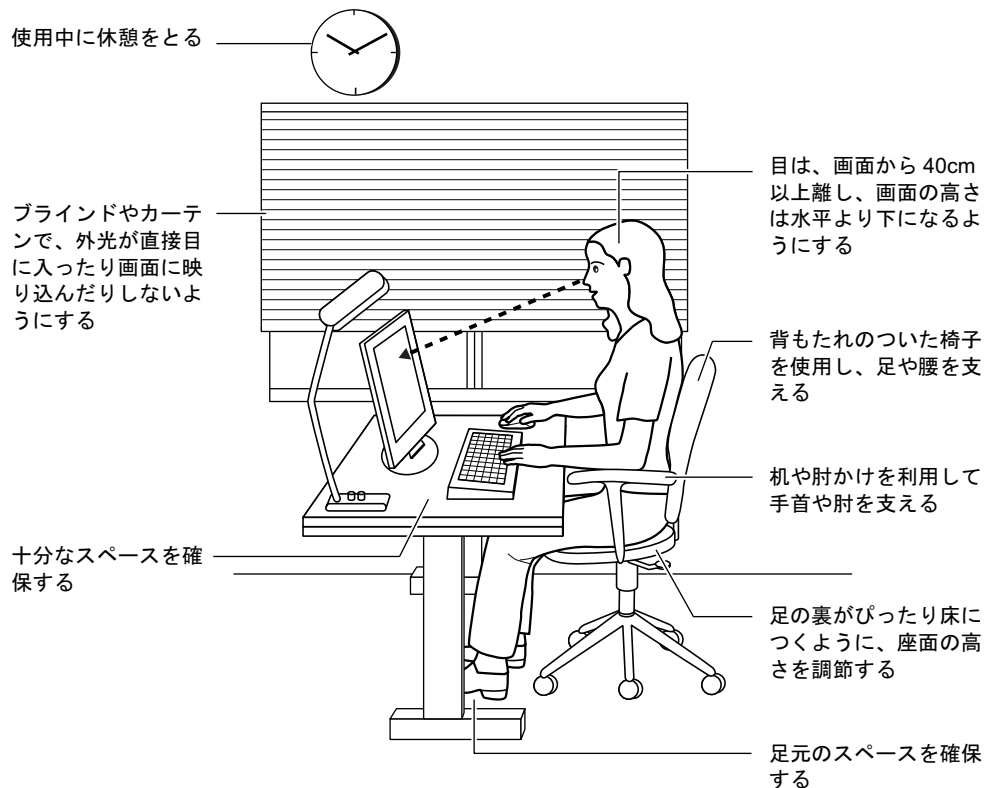
2

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1	パソコンの疲れにくい使い方	28
2	周辺機器を取り付ける前に	30
3	ポインティングデバイスについて	31
4	キーボードについて	40
5	バッテリーについて	44
6	モバイルマルチベイについて	51
7	液晶ディスプレイの回転について	54
8	ポータリプリケータについて	56
9	CD/DVDについて	58
10	フロッピーディスクについて	65
11	メモリについて	69
12	PCカードについて	74
13	メモリーカードについて	79
14	スマートカードについて	83
15	プリンタについて	90
16	外部ディスプレイについて	91
17	ハードウェアのお手入れ	94

1 パソコンの疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩が痛くなり、腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いの際は姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。



POINT

- ▶ 富士通では、独立行政法人産業医学総合研究所の研究に協力し、その成果が「パソコン利用のアクションチェックポイント」としてまとめられています。詳しくは、富士通ホームページ (<http://design.fujitsu.com/jp/universal/ergo/vdt/>) の解説をご覧ください。

ディスプレイ

- 外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないように、窓にブラインドやカーテンを取り付けたり、画面の向きや角度を調整しましょう。
- 画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ディスプレイの上端が目の位置と同じかやや低くなるようにしましょう。

- ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように角度を調整しましょう。
- 目と画面の距離は、40cm 以上離すようにしましょう。

使用時間

- 1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1 時間に 10 ～ 15 分程度の休憩時間をとりましょう。また、休憩時間までの間に 1 ～ 2 分程度の小休止を 1 ～ 2 回取り入れましょう。

入力機器

- キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるようにして使い、手首や肘は机、椅子の肘かけなどで支えるようにしましょう。

机と椅子

- 高さが調節できる机や椅子を使いましょう。調節できない場合は、次のように工夫しましょう。
 - ・机が高すぎる場合は、椅子を高く調節しましょう。
 - ・椅子が高すぎる場合は、足置き台を使用し、低すぎる場合は、座面にクッションを敷きましょう。
- 椅子は、背もたれ、肘かけ付きを使用しましょう。

作業スペース

- 机上のパソコンの配置スペースと作業領域は、十分確保しましょう。スペースが狭く、腕の置き場がない場合は、椅子の肘かけなどを利用して腕を支えましょう。

2 周辺機器を取り付ける前に

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付け後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

- **マニュアルをご覧ください**

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

- **純正品をお使いください**

弊社純正のオプション機器については、FMV-LIFEBOOK の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

- **ACPI に対応した周辺機器をお使いください**

本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ (ACPI S1) をサポートしていません。

お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。

- **周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください**

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

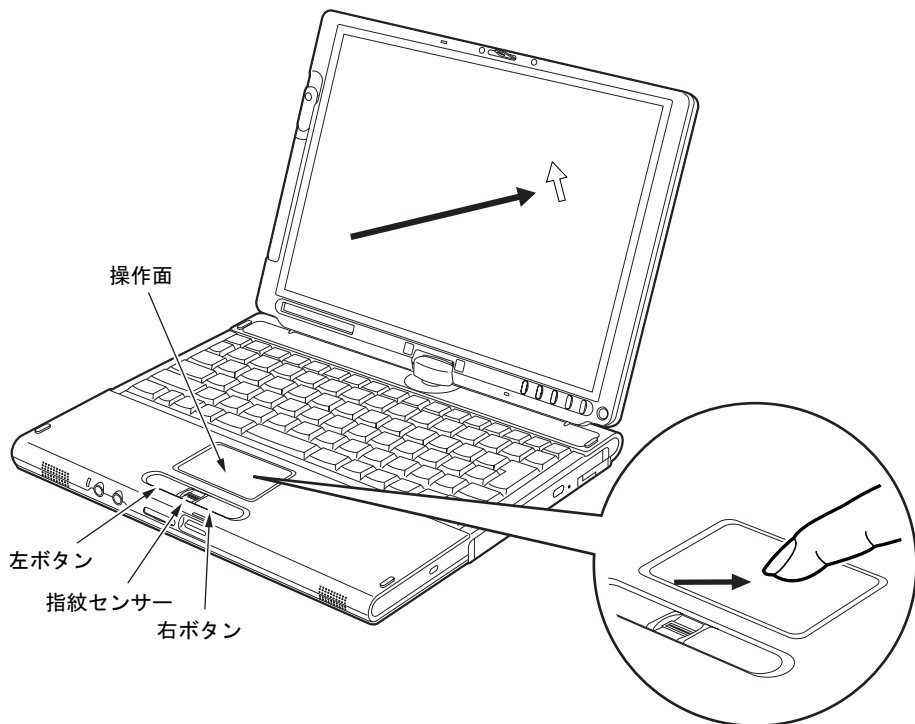
重要

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定をしてください。

3 ポインティングデバイスについて

フラットポイントについて

フラットポイントは、指先の操作で画面上の矢印（マウスポインタ）を動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある3つのボタンで構成されています。操作面は、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、操作面を上下左右に指先でなぞることにより画面上のマウスポインタを移動させます。また、軽くたたく（タップ）ことにより、クリックやダブルクリック、ポイント、ドラッグなどの操作を行うこともできます。左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はアプリケーションにより異なります。



POINT

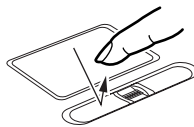
- ▶ フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポインティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- ▶ 操作面は、湿気などにより結露したり、汚れが付着したりすると、誤動作を起こすことがあります。この場合は、乾いた柔らかい布で水分や汚れを拭き取ってください。また、汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- ▶ お使いになるアプリケーションによっては、操作面による画面のスクロールが出来ない場合があります。
- ▶ マウスを使用する場合は、フラットポイントとの同時使用についてなどを、コントロールパネルの「マウス」で設定できます。

■ フラットポイントの使い方

● クリック



または



操作面を1回タップ（軽くたたく）するか、左ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。

また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック



または



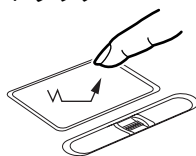
操作面を2回連続してタップするか、左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐ離すことです。ダブルクリックの速度は、コントロールパネルの「マウス」で調節できます。

● ポイント

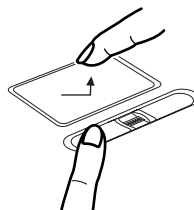


マウスポインタをメニューなどに合わせることで、マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ

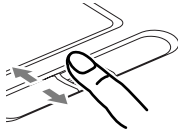


または



マウスポインタを任意の位置に移動し、操作面を素早く2回タップします。2回目のタップのときに指を操作面上から離さないで、希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。または、マウスポインタを任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。

● スクロール



戻る：向こうにスライドする
進む：手前にスライドする

指紋センサーのスクロール機能で、画面のスクロールをすることができます。ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてから、指紋センサー上で指先を前後方向にスライドすると、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

POINT

- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、コントロールパネルの「マウス」で変更できます。
- ▶ 操作面をタップする場合は、指先で軽く、素早く行ってください。また、力を入れて行う必要はありません。
- ▶ マウスポインタは、フラットポイントの操作面を指でなぞった方向に移動します。操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から離し、適当な場所に指を降ろしてからもう一度なぞってください。
- ▶ 指紋センサーのスクロール機能の速度はコントロールパネルの「コントロールパネルのその他のオプション」－「指紋センサー」で変更できます。

マウスについて

重要

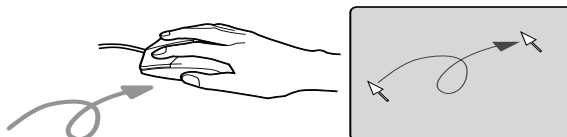
- ▶ 本パソコンには、USB マウスは添付されておりません。お使いになる場合は、別売の USB マウスをご購入ください。
- ▶ 特に断りがない場合は、USB マウスと USB マウス（光学式）をまとめて「USB マウス」と呼んでいます。

POINT

- ▶ お使いになるアプリケーションによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。

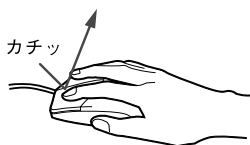
■ マウスの使い方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、マウスポインタが同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



□ ボタンの操作

● クリック



マウスの左ボタンを 1 回カチッと押して、すぐ離すことです。また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック



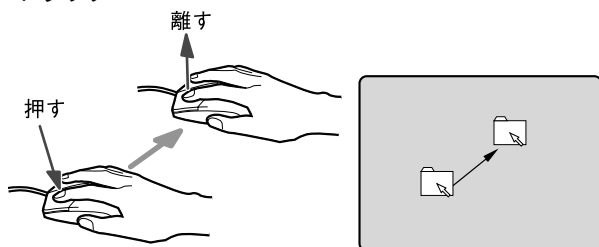
マウスの左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。ダブルクリックの速度は、コントロールパネルの「マウス」で調節できます。

● ポイント



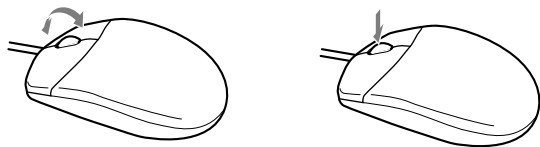
マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に ▶ が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ



マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

● スクロール



ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてからスクロールボタンを前後方向に押すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。また、第 3 のボタンとして押して使うこともできます。

POINT

- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンは、コントロールパネルの「マウス」で変更できます。

■ USB マウスについて

□ USB マウス（光学式）について

USB マウス（光学式）は、底面からの赤い光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

重要

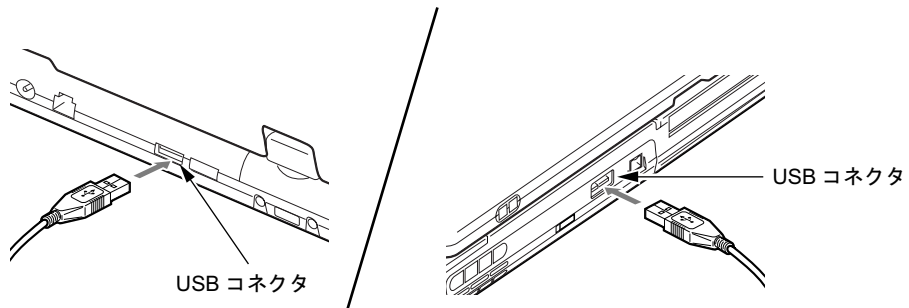
- ▶ オプティカル（光学）センサーについて
 - ・ マウス底面から発せられている赤い光を直接見ると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
 - ・ センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
 - ・ 発光部分を他の用途に使用しないでください。

POINT

- ▶ USB マウス（光学式）は、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
 - ・ マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。
- ▶ USB マウス（光学式）は、非接触でマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドを必要としません。ただし、マウス本体は接触しているため、傷がつきやすい机やテーブルの上では、傷を防止するためにマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

□ 接続のしかた

- 1** 本パソコンの USB コネクタに USB マウスを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



POINT

- ▶ USB マウスは、パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
- ▶ USB マウスによっては、ドライバのインストールが必要な場合があります。お使いになる USB マウスのマニュアルをご覧ください、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- ▶ USB マウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。フラットポイントと併用する場合は、コントロールパネルの「マウス」で設定してまず（→ P.36）。
- ▶ Windows が起動していないときは、USB マウスはお使いになれません。
- ▶ USB マウスはどちらの USB コネクタにも接続できます。
- ▶ USB マウスは、ポートリプリケータの USB コネクタに接続することもできます。

■ USB マウス接続時にフラットポイントを有効にするには

本パソコンに USB マウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。USB マウスを接続したときにフラットポイントと併用する場合は、次のように設定してください。

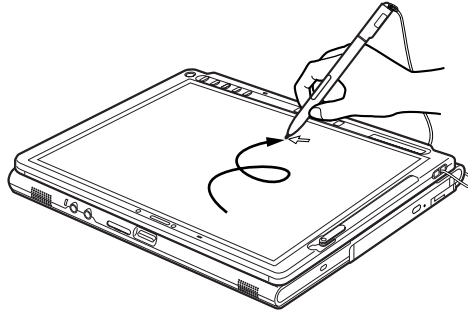
- 1** 「スタート」 ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」の順にクリックします。
- 2** 「マウス」アイコンをクリックします。
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「USB マウス接続時の動作」タブの「USB マウスとタッチパッド」で、「USB マウスと同時に使用する」をチェックし、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 「マウスのプロパティ」ウィンドウで、USB マウスを接続したときのフラットポイントの動作を設定するには、「Alps Pointing-device Driver」が必要です。本パソコンにはプレインストールされています（→『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」）。
- ▶ フラットポイントと USB マウスを同時に使用する設定をした場合、【Fn】+【F4】キーでフラットポイントの有効と無効を切り替えることができます。
 1. Windows が起動したら、【Fn】+【F4】キーを押します。
キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
有効の場合は「Internal pointing device:Enabled」、無効の場合は「Internal pointing device:Disabled」などと表示されます。
 - ・【Fn】+【F4】キーを押してフラットポイントを無効にしても、本パソコンの再起動後およびレジューム後は、フラットポイントが有効になります。フラットポイントを無効にする場合は、もう一度【Fn】+【F4】キーを押して切り替えてください。
 - ・IndicatorUtility をアンインストールすると、手順 1 で表示されるメッセージは画面に表示されません。
- ▶ フラットポイントを常に無効にするには、手順 3 で「常時タッチパッドを使用しない」をチェックしてください。

タブレットについて

本パソコンは電磁誘導式です。ペンで画面を触れず近づけるだけで、マウスポインタを操作することができます。画面上を直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。



画面上にペンを近づけて移動させると、マウスポインタが移動します。

POINT

- ▶ ペンをお使いになる場合、力をいれて画面をなぞる必要はありません。画面に近づけて移動させるだけでマウスポインタを操作できます。
- ▶ 必ず添付のペンで操作してください。指先やボールペンなどでは操作できません。
- ▶ ペンの紛失を防ぐために、添付のペンひもをお使いください。ペンひもで、ペンとパソコン本体のペンひも取り付け用穴を結び付けます。
- ▶ ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。

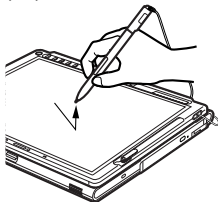
商品名：スタイラスペン LB-PN1

商品番号：0635190

スタイラスペン LB-PN1 は、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

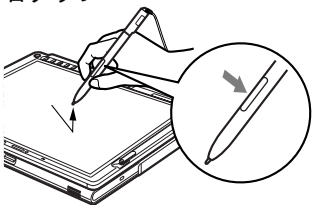
■ タブレットの使い方

● タップ



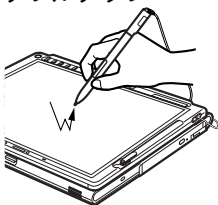
ペンで画面を1回押します。
マウスの左クリックと同様の操作です。

● 右タップ



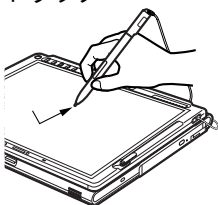
ペンのモードボタンの下側を押しながら画面をタップし離します。また、ペンで画面を長押しして「マウス」アイコンが表示されてから、ペンを離しても右タップになります。マウスの右クリックと同様の操作です。

● ダブルタップ



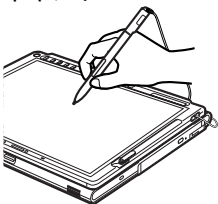
ペンで画面を素早く2回連続して押します。
マウスのダブルクリックと同様の操作です。

● ドラッグ



画面に軽く押し付けながらなぞります。

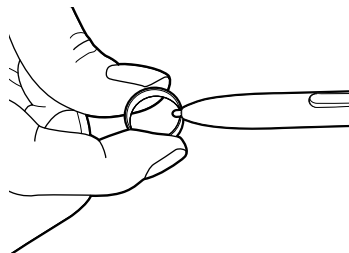
● ポイント



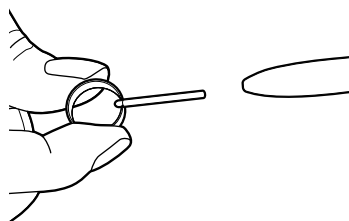
ペン先を画面に近づけたり、軽く触れます。

ペン先の交換方法

- 1** ペン先をペン本体から引き抜きます。
添付のクリップでペン先をはさみます。



- 2** ペン先がペン本体から外れるまで、まっすぐ引き抜きます。



- 3** 新しいペン先をペン本体に差し込みます。
ペン先の向きを確かめて、ペン本体の穴にまっすぐ差し込みます。

4 キーボードについて

OADG キーボード

キーボードのキーの役割を説明します。

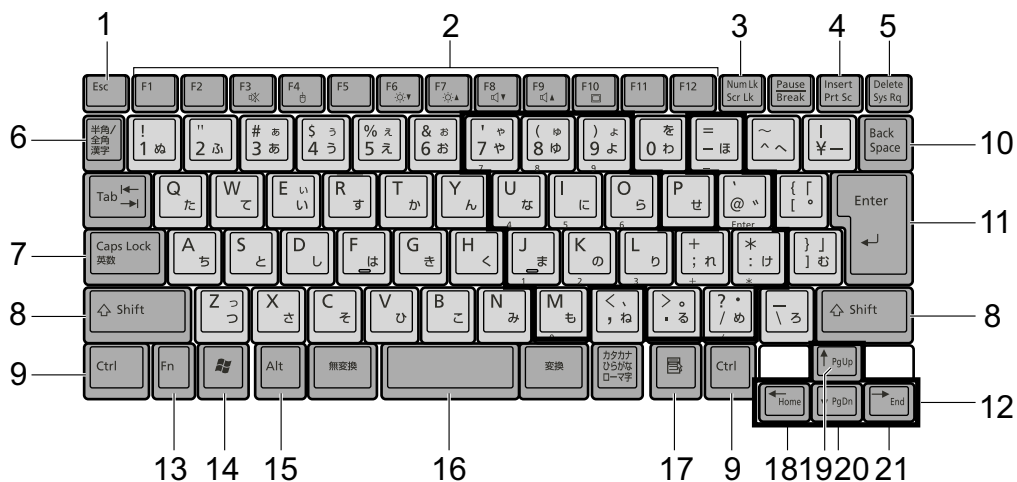
キーは大きく分けると、制御キーと文字キーの2種類に分かれます。

POINT

- ▶ お使いになるアプリケーションにより、キーの役割が変わることがあります。アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
- ▶ キーボードに青字で刻印されているキーは、【Fn】キーと一緒に押すとお使いになれます。

■ : 制御キー

■ : 文字キー



■ 主なキーの名称と働き

1 【Esc】キー

アプリケーションの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】+【Shift】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」が表示され、アプリケーションを強制終了できます。

2 【F1】～【F12】キー

アプリケーションごとにいろいろな機能が割り当てられています。

3 【Num Lk】キー

テンキーモードに切り替えます。再度押すと、解除されます。

「テンキーモードについて」(→ P.42)

4 【Insert】キー／【Prt Sc】キー

【Insert】キー

文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

【Prt Sc】キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。

また、**【Alt】** キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

5 【Delete】キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。

また、**【Ctrl】 + 【Alt】** キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」または「Windows のセキュリティ」が表示され、システムを強制終了できます。

6 【半角／全角】キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

7 【Caps Lock】キー

【Shift】 キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。

Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

8 【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

9 【Ctrl】キー

他のキーと組み合わせて使います。

10 【Back Space】キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

11 【Enter】キー

入力した文字を確定したり、コマンドを実行したりします。

リターンキー、または改行キーとも呼ばれます。

12 【↑】【↓】【←】【→】キー

カーソルを移動します。

13 【Fn】キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】 + 【F3】

スピーカーやヘッドホンの ON/OFF を切り替えます。

『ソフトウェアガイド』の「機能」－「キーボードで調節する」

【Fn】 + 【F4】

フラットポイントの有効と無効を切り替えます。

【Fn】 + 【F6】

液晶ディスプレイを暗くします。

『ソフトウェアガイド』の「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」

【Fn】 + 【F7】

液晶ディスプレイを明るくします。

『ソフトウェアガイド』の「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」

【Fn】 + 【F8】

音量を小さくします。

『ソフトウェアガイド』の「機能」－「キーボードで調節する」

【Fn】 + 【F9】

音量を大きくします。

『ソフトウェアガイド』の「機能」－「キーボードで調節する」

【Fn】 + 【F10】 外部ディスプレイ接続時に、液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。
『ソフトウェアガイド』の「機能」－「表示装置の切り替え」

14  (Windows) キー


「スタート」メニューを表示します。

15 **【Alt】** キー

他のキーと組み合わせて使います。

16 **【Space】** キー

1文字分の空白を入力します（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

17  (アプリケーション) キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。
ペンの右タップと同じ役割をします。

18 **【Home】** キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、カーソルを行の最初に移動します。
また、**【Ctrl】** キーと一緒に押すと、文章の最初に移動します。

19 **【Pg Up】** キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、前の画面に切り替えます。

20 **【Pg Dn】** キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、次の画面に切り替えます。

21 **【End】** キー

【Fn】 キーと一緒に押すと、カーソルを最後の行に移動します。
また、**【Ctrl】** キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

■ テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、**【Num Lk】** キーで行い、（状態表示 LCD の Num Lock 表示が点灯）、キーボードの図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの「キーボード設定」で「起動時の Numlock 設定」を「オン (Fn キー)」に設定すると、パソコン本体のキーボードのテンキー部分が、**【Fn】** キーと同時に押した場合のみテンキーモードとして使用できるようになります。

テンキーボード

■ USB テンキーボードについて

USB テンキーボードは、パソコン本体のテンキーモードとは独立してテンキーモードに切り替えることができます。

テンキーモードに切り替えるには、USB テンキーボードの【Num Lock】キーを押します。

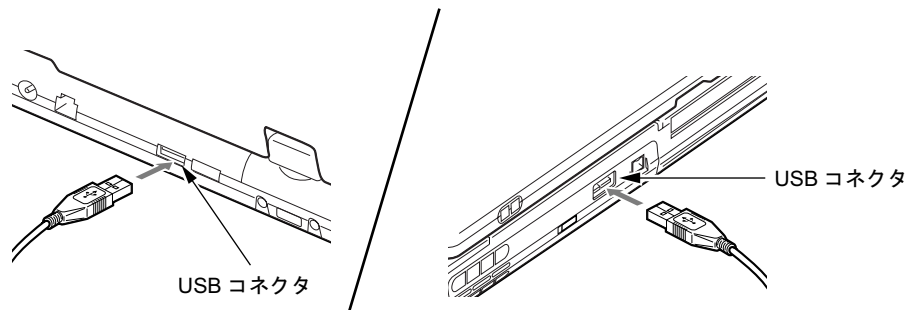
POINT

- ▶ パソコンの電源を入れた時、またはパソコンに接続した時は、USB テンキーボードはテンキーモードになります。
- ▶ Excel 2003 をお使いのときに、テンキーの【-】キーを押すと拡張（選択）モードになることがあります。

□ 接続について

1 本パソコンの USB コネクタに接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。




POINT

- ▶ USB テンキーボードは、パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
- ▶ USB テンキーボードはどちらの USB コネクタでも接続できます。
- ▶ USB テンキーボードは、ポートリプリケータの USB コネクタに接続することもできます。

5 バッテリーについて



バッテリーを充電する

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続すると充電が始まり、状態表示 LCD にバッテリー充電表示 () と、そのときのバッテリー残量が表示されます。

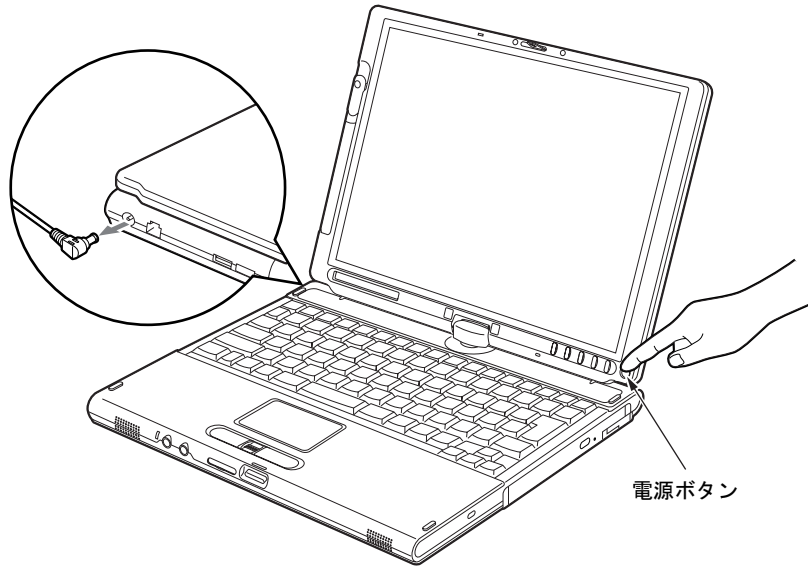
2 バッテリー充電表示が消えたことを確認し、AC アダプタを取り外します。

POINT

- ▶ 充電時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→P.126)をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリーを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリーの充電は、バッテリー充電表示が消え、左端のバッテリー残量表示が点滅 () から点灯 () に変わると完了です。バッテリーの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリー残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ 電源が切れている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示 LCD の全表示が消灯します。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリー運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働いて充電が行われない場合があります (バッテリー充電表示が点滅します)。しばらくして、バッテリーの温度が低下すると充電が開始されます。
- ▶ 増設バッテリーを取り付けた場合、充電は平行して行われます。

バッテリーで運用する

- 1 ACアダプタを取り外し、電源ボタンを押します。
電源表示が点灯します。




POINT


- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリー稼働時間は短くなります。
- ▶ バッテリー稼働時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→P.126)をご覧ください。
- ▶ バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください(→P.49)。
- ▶ バッテリーの温度が上昇すると、パソコンの動作が遅くなる場合があります。その場合は、ACアダプタを接続してください。


バッテリー残量を確認する


バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LCD のバッテリー残量表示で確認できます。


■ バッテリーの残量表示


- 
 約 100%～約 76%のバッテリー残量を示します。

↓
- 
 約 75%～約 51%のバッテリー残量を示します。

↓
- 
 約 50%～約 26%のバッテリー残量を示します。

↓
- 
 約 25%～約 13%のバッテリー残量を示します（充電中は、0%～約 25%のバッテリー残量を示します）。


↓
- 
 LOW バッテリー状態（約 12%以下のバッテリー残量）を示します。■ が点滅します（→ P.47）。

↓
- 
 バッテリー切れ状態（0%のバッテリー残量）を示します。


● POINT

- ▶ バッテリー残量表示は、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により、実際のバッテリー残量とは異なる表示をする場合があります。
- ▶ バッテリー残量が90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。


■ バッテリーの異常表示

- 
 バッテリーが正しく充電できないことを示します。

● POINT

- ▶  が点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでも点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。
「ハードウェア」－「バッテリーパックを交換する」（→ P.49）

■ LOW バッテリー状態

バッテリーが LOW バッテリー状態になると、状態表示 LCD のバッテリー残量表示が点滅します ()。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリーを充電してください。

POINT

- ▶ Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます (→『ソフトウェアガイド』の「機能」－「省電力の設定」)。
ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。【Fn】 + 【F3】 キーを押して、スピーカーの ON と OFF を切り替えてください (→『ソフトウェアガイド』の「機能」－「キーボードで調節する」)。
- ▶ OS の起動前 (BIOS セットアップなど) では、警告音が鳴るように設定できません。
- ▶ LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ▶ ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOW バッテリー状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
- ▶ LOW バッテリー状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
- ▶ 本パソコンではバッテリー残量が 1%以下になると、自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
 - ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」ただし、これらの設定を変更すると、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

取り扱い上の注意

⚠ 警告



- バッテリーの交換などで、バッテリーパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたバッテリーパックは使用しないでください。
感電や火災、バッテリーパックの破裂の原因となります。

● 分解しないでください

バッテリーを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。

● 放電について

- ・バッテリーは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
- ・長期間（約1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。

● 寿命について

- ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。
- ・高温環境に放置した場合、バッテリーの消耗、劣化が進みます。
- ・バッテリーは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリーと交換してください。
- ・バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリーの寿命です。
- ・寿命になったバッテリーは、パソコン本体から取り外してください。取り付けのまま放置すると、感電や火災の原因となります。

● 廃棄・リサイクルについて

バッテリーを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外した内蔵バッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。

また、内蔵バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

バッテリーパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

● バッテリー稼働時間について

- ・バッテリー稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します（→『ソフトウェアガイド』の「機能」－「省電力」）。
- ・バッテリー稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリー稼働時間が短くなる場合があります。

● 次のような場合は AC アダプタを使用してください

- ・ハードディスクや CDなどを頻繁に使用するとき
- ・LAN やモデムを頻繁に使用するとき
- ・本パソコンをご購入時の状態に戻すとき
- ・PC カードや USB 機器を2つ以上同時に取り付ける場合

● 次のような場合は、バッテリー残量に注意してください

- ・ワイヤレス LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
- ・BIOS セットアップを操作するとき

バッテリーパックを交換する

内蔵バッテリーパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。

警告

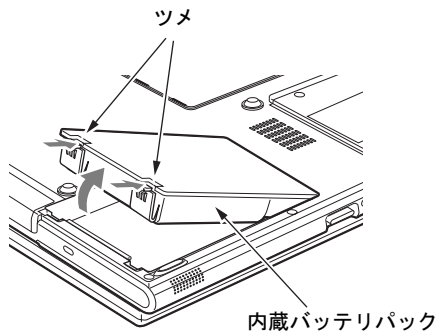


- 内蔵バッテリーパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体や内蔵バッテリーパックのコネクタに触れないください。感電や故障の原因となります。

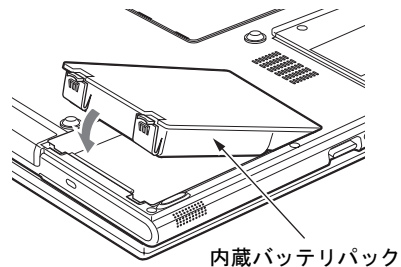
POINT

- ▶ 新しい内蔵バッテリーパックは、次の製品をお買い求めください。
品名：Li-ion バッテリーパック
型名：FMVNBP143

- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 内蔵バッテリーパックのツメを内側に押しながら内蔵バッテリーパックを取り外します。
内蔵バッテリーパックロックがコネクタから外れます。



- 4 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。
新しい内蔵バッテリーパックを斜め上から差し込み、パソコン本体の突起と内蔵バッテリーパックのスリットをあわせ、カチッと音がするまでしっかりとはめこみます。



重要

- ▶ 取り外したバッテリーパックは、ショート（短絡）防止のため、内蔵バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外したバッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、リチウムイオン電池、ニッケル水素電池のバッテリーパックは、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
リサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

6 モバイルマルチベイについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、モバイルマルチベイユニットをお使いになる場合は、次の点に注意してください。

- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット、内蔵 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット、内蔵スーパーマルチドライブユニット、内蔵 FDD ユニットは、ディスクが高速に回転する非常にデリケートな装置です。ディスクにアクセスしている状態で、パソコン本体を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。ユニットが破損したりデータが壊れるおそれがあります。
- 極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- 衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
- 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。もし、何か異物が入ったときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- 汚れは、柔らかい布でからぶきするか、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませて軽くふいてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用や保管は避けてください。

使用できるユニット

本パソコンで使用できるユニットは、次のとおりです。

- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット (FMVNC02)
- 内蔵 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット (標準添付品)
- 内蔵スーパーマルチドライブユニット (FMVNSM03)
- 内蔵 FDD ユニット (FMVNFD12)
- 増設用内蔵バッテリーユニット (FMVNBT25)
- モバイルマルチベイ用カバー (標準添付品)

標準添付品以外のユニットは、別途購入することができます。

ユニットを交換する

ここでは、ユニットの交換方法について説明します。

重要

- ▶ 本パソコンをお使いになるときは、必ずモバイルマルチベイにユニットまたはモバイルマルチベイ用カバーを取り付けてください。何も取り付けていない状態でお使いになると、故障の原因となります。
- ▶ ユニットの交換を行う場合は、必ず、本パソコンを通常のノート型パソコンの状態に戻してから行ってください。タブレットモードでユニットの交換を行うと、故障の原因となることがあります。
- ▶ ベイユニット取り外しレバーを起こすとロックが解除され、ユニットが使えなくなることがあります。ベイユニット取り外しレバーは、ユニットを取り外す場合のみ起こしてください。誤ってレバーを操作してしまった場合は、いったんパソコン本体の電源を切り、ユニットを取り外してから再度取り付けてください。
- ▶ 電源が入っている場合は、増設用内蔵バッテリーユニットを取り外す前に、内蔵バッテリーの残量が十分であることを確認してください。
内蔵バッテリーの残量が十分でない場合は、ACアダプタを取り付けてから行ってください。

POINT

- ▶ 内蔵FDDユニットにセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、BIOSセットアップの設定を変更してください。
・「詳細」－「USB設定」－「レガシーUSBサポート」：使用する（ご購入時の設定）
- ▶ スタンバイまたは休止状態の場合は、ユニットの交換／取り外し／取り付けをしないでください。

■ ユニットを取り外す

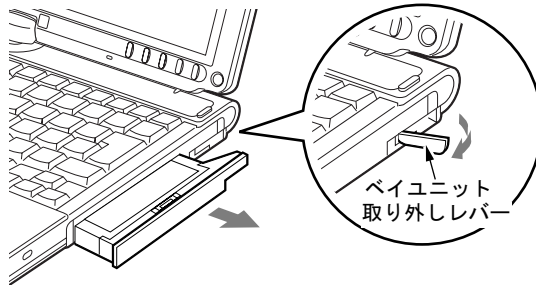
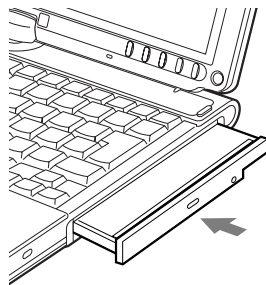
POINT

- ▶ 電源が入っている場合は、増設用内蔵バッテリーユニットを取り外す前に、内蔵バッテリーの残量が十分であることを確認してください。内蔵バッテリーの残量が十分でない場合は、ACアダプタを取り付けてから行ってください。
- ▶ 内蔵FDDユニットを取り外す前に、内蔵FDDユニットのアクセスランプが消えていることを確認してください。
- ▶ 次のユニットを取り外す場合は、手順4のみ操作してください。
・モバイルマルチベイ用カバー
・増設用内蔵バッテリーユニット

- 1** 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。
- 2** 「[お使いのモバイルマルチベイユニット] を安全に取り外します」をクリックします。
- 3** 「ハードウェアの取り外し（[お使いのモバイルマルチベイユニット] は安全に取り外すことができます）」と表示されていることを確認します。

4 ユニットを取り外します。

ベイユニット取り外しレバーを起こし、ユニットを取り外します。

**■ ユニットを取り付ける****1** 新しいユニットを取り付けます。

ユニットのコネクタを奥にして、突き当たるまで、しっかり押し込みます。

POINT

- ▶ 電源が入っている場合、ユニットの交換直後は「マイコンピュータ」ウィンドウなどからドライブの表示が消えることがあります。しばらくすると再表示され、使用することができます。

7 液晶ディスプレイの回転について

ここでは、液晶ディスプレイの回転の仕方について説明します。
本パソコンは、通常の状態、またはタブレットモードの両方の状態でお使いになれます。
次の手順でモードの切り替えが行えます。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイを回転させるときは、パソコン本体を机などの安定した平らな場所に置いてください。

POINT

- ▶ 本パソコンは、通常のノート型パソコンとしてキーボードとフラットポイントで操作するほかに、液晶ディスプレイを 180° 回転させて外側に折りたたみ、付属のペンで操作することができます。ディスプレイを回転して、たたんだ状態をタブレットモードと呼びます。

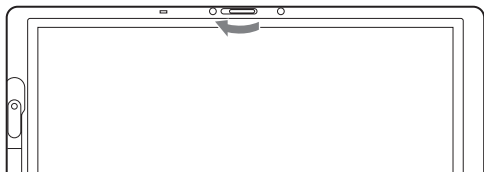
1 液晶ディスプレイを開きます。

前面のリリースボタンを押してロックを外し、液晶ディスプレイに手を添えて持ち上げます。

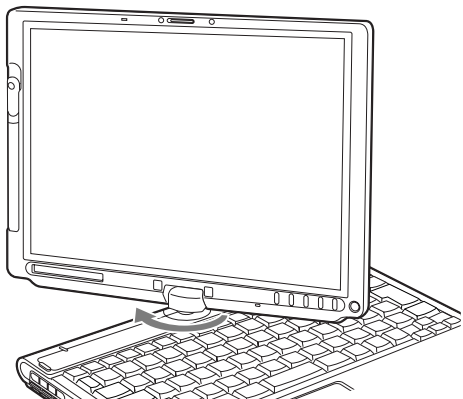
POINT

- ▶ 液晶ディスプレイは 90° の角度に開いてください。それ以外の角度では、パソコン本体を傷つける可能性があります。

2 ラッチを 90° 回転させます。



3 液晶ディスプレイの両側を持ち、矢印の方向に 180° 回転させます。

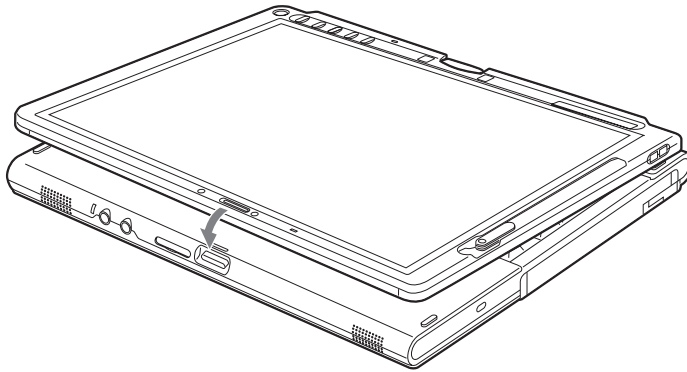


重要

- ▶ 液晶ディスプレイを 180° 以上、または逆方向に回転することはできません。180° 以上、または逆方向に回転させようと無理な力を加えないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

POINT

- ▶ 画面を回転させるときは、ペンひも、AC アダプタケーブル、LAN ケーブル、アナログケーブル、モデムケーブルなどが絡まないようにして回転させてください。
- ▶ タブレットモードから通常の状態へ戻すには手順 2、3 で逆方向に回転させてください。

4 液晶ディスプレイを閉じます。**重要**

- ▶ タブレットモードで使用する場合、次の点にご注意ください。
 - ・手に持って使用する場合、AC アダプタを取り外してください。
 - ・手に持って使用する場合、通風孔や排気孔をふさがないようにしてください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
 - ・液晶ディスプレイがしっかり閉じた状態でお使いください。

POINT

- ▶ 通常の状態からタブレットモードや、タブレットモードから通常の状態にすると画面の表示の向きが自動的に切り替わるように設定されています。詳しくは「富士通タブレットコントロール」のヘルプをご覧ください。
- ▶ ポートリプリケータを取り外し、タブレットモードで使用する場合、ご購入時の設定では DVD-ROM&CD-R/RW ドライブの動作は無効になっています。詳しくは「富士通タブレットコントロール」のヘルプをご覧ください。

8 ポートリプリケータについて

重要

- ▶ ポートリプリケータに接続している周辺機器の中には、電源が入っている状態でポートリプリケータの取り付け／取り外しを行うと、動作が不安定になるものがあります。この場合はパソコン本体の電源を切ってから、ポートリプリケータの取り付け／取り外しを行ってください。
- ▶ ポートリプリケータ接続時には、必ずパソコン本体のコネクタから、LAN ケーブル、アナログディスプレイケーブル、AC アダプタを取り外してください。破損するおそれがあります。

ポートリプリケータを取り付ける

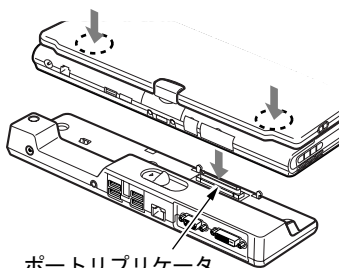
注意



- パソコン本体にポートリプリケータを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
けがの原因となることがあります。

1 パソコン本体下面にポートリプリケータを取り付けます。

コネクタの位置を合わせてパソコン本体を水平に下ろし (1)、パソコン本体上面の奥側を軽く押さえて (2)、ポートリプリケータにしっかりと取り付けます。



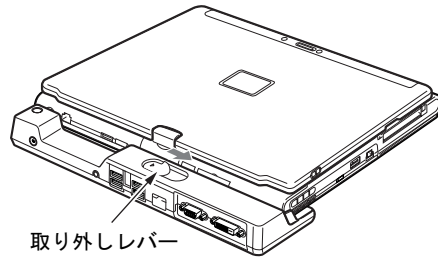
ポートリプリケータ
接続コネクタ

重要

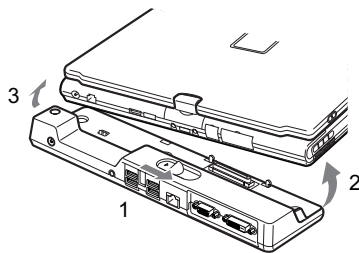
- ▶ ポートリプリケータに周辺機器を取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
- ▶ ポートリプリケータを取り付ける場合、パソコン本体上面の奥側を軽く抑えてください。強く押さえると液晶ディスプレイが割れるおそれがありますので、注意してください。
- ▶ 本パソコンを持ち運ぶ場合は、ポートリプリケータを必ず取り外してください。ポートリプリケータを接続した状態で本パソコンを持ち運ぶと、パソコン本体およびポートリプリケータのコネクタが破損するおそれがあります。

ポートリプリケータを取り外す

- 1** ポートリプリケータに周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を切ります。
- 2** ポートリプリケータの取り外しレバーをスライドさせて、ロックを外します。



- 3** ポートリプリケータを取り外します。
取り外しレバーをスライドさせたまま (1) ポートリプリケータの接続コネクタ側からパソコン本体を持ち上げ (2) ポートリプリケータを取り外します (3)。



9 CD / DVD について

重要

- ▶ ここでは、CD-ROMや音楽CDおよびCD-R/RWディスクをまとめてCD、DVD-ROMやDVD-VideoなどをまとめてDVDと呼んでいます。また、CDやDVDをまとめてディスクと呼びます。
- ▶ カスタムメイドで選択したドライブによって、使用できるディスクは異なります。
- ▶ WinDVD、Roxio DigitalMedia、DLA、DVD-RAM ドライバーソフトについては『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」をご覧ください。

取り扱い上の注意

■ ディスク使用時の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側にむかって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- パソコン本体の CD アクセス表示が点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。
- CD 自動挿入機能（オートラン）が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライタアプリケーションがあります。アプリケーションの指示に従って CD 自動挿入機能を設定してください。
- ディスクに書き込み中は、パソコン本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD 取り出しボタンを押したりしないでください。また、【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押す操作もしないでください。
- 書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ディスクへの書き込みを行うときは、自動的にスタンバイまたは休止状態にならないように、省電力の設定を変更してください。
- ディスクへの書き込みには、多くの電力を使用します。パソコン本体に AC アダプタを取り付けてお使いください。
- ディスクへの書き込み中は、他のアプリケーションを起動しないでください。他のアプリケーションを起動している場合は、そのアプリケーションを終了させてください。

■ DVD ディスクご使用時の注意事項

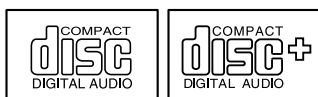
- 次の DVD-Video ディスクがお使いになれます。
 - ・ DVD ディスクに記録されているリージョン（地域）コードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスク
- ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、WinDVD での再生は保証いたしません。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。
- リージョン（地域）コードについて
 - ・ リージョン（地域）コードの変更は4回までです。
リージョン（地域）コードを4回変更すると、最後に設定したリージョン（地域）コードに固定され、その他のリージョン（地域）コードの DVD-Video は再生できなくなります。固定された地域コードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
 - ・ 前回再生した DVD-Video と、リージョン（地域）コードが異なる DVD-Video を再生しようとする、リージョン（地域）コード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をクリックすると、リージョン（地域）コードの設定が変更されます。
 - ・ ご購入時のリージョン（地域）コードは「2」です。
- DVD のディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。WinDVD では、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証（Authentication）機能が用意されています。著作権保護のされたデータなどをコピーし、再生しても、相互認証エラー（Authentication Error）となり、再生できません（This DVD can't be played in this Region. と表示されます）。

■ DVD ディスク再生時の注意事項

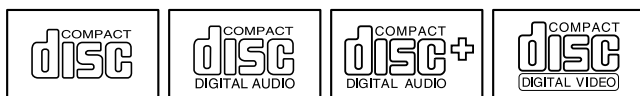
- 再生する DVD-Video によっては、コマ落ちをする場合があります。
- WinDVD の設定を変更した直後は、DVD-Video の再生が不安定になる場合があります。
- キャプション表示とサブタイトル表示を、同時に表示することはできません。
- MPEG1 のデータによっては再生できないものがあります。
- DVD-Video の再生中に他のアプリケーションを起動すると、コマ落ち／音飛びする場合があります。コマ落ち／音飛びを防ぐために、起動しているアプリケーションはすべて終了してください。
なお、定期的に自動起動して、ウィルスチェック、ディスクメンテナンス、データベース更新およびデータ送受信処理などを行うソフトウェアについても、その頻度により音や映像の再生に影響が出ますので、必要に応じて終了してください。
- DVD ディスクおよびビデオ CD によっては、再生される映像データが表示エリア全体に表示されないものがあります。この場合は、表示の一部が黒くなります。
- マウスカーソルのデザインによっては、DVD 再生画面の上に移動したときにマウスカーソルが点滅することがあります。このような時は、「マウスのプロパティ」の「ポインタ」タブで、「デザイン」の設定を「なし」に変更してください。
- 縦横比が16:9で録画されているDVD-Videoをフルスクリーン表示をさせた場合、ズーム機能が使用できないことがあります。

■ ドライブの注意事項

- 本パソコンは、円形のディスクのみお使いになれます。円形以外の異形ディスクは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形ディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 「ディスク使用時の注意事項」が守られていないディスク、ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うとレンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- コピーコントロール CD は、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本パソコンでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。
なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。



- 本パソコンでは、次図のマークがついた CD をお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。
また、マークの種類によっては、アプリケーションが必要になる場合があります。



POINT

- ▶ DVD-ROM & CD-R/RW ドライブまたはスーパーマルチドライブをお使いの場合は、次の点にご注意ください。
 - ・不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクやビデオ CD は、正常に再生できない場合があります。
 - ・本パソコンでは DVD-Audio など「使用できるディスク」(→ P.61)に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。
- ▶ WinDVD では DVD-Video および DVD-VR/+VR フォーマットのデータのみ再生できます。その他の形式でフォーマットされたデータの再生および動作保証はできません。

使用できるディスク

□ DVD-ROM&CD-R/RW ドライブの場合

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD	 	○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R		○	○	×
CD-RW	 	○	○	○注
DVD-ROM		○	×	×
DVD-Video		○	×	×
DVD-R (3.95GB/ 4.7GB)		○	×	×
DVD-R DL (8.5GB)		×	×	×
DVD-RW		×	×	×
DVD+R (4.7GB)		×	×	×
DVD+R DL (8.5GB)		×	×	×
DVD+RW (4.7GB)		×	×	×
DVD-RAM		×	×	×

注 :DLA をインストールしていない場合、CD-RW に書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。

□推奨ディスク

本パソコン内蔵のユニットで書き込み・書き換えを行う場合は、次のディスクの使用を推奨します。なお、使用できるディスクは、カスタマイズの選択によって異なります。

CD-R

太陽誘電 : CDR-74WTY、CDR-80WTY

CD-RW

富士通サプライ品 : CD-RW74/0241410

三菱化学メディア : SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1

富士通サプライ品は、富士通コワーコ株式会社の取り扱い品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

上記以外の記録型ディスクをお使いの場合は、書き込み・書き換え速度が低下したり正常に書き込み・書き換えができない場合があります。

POINT

- ▶ 本パソコンで作成した CD-R/RW は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
- ▶ 本パソコンで作成した DVD-RAM、DVD-R/RW、DVD+R/RW、および DVD+R DL は、お使いになる DVD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
また、再生に対応した DVD プレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。

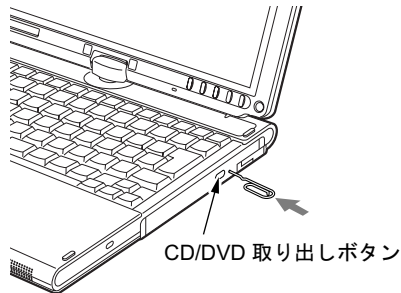
ディスクをセットする／取り出す

重要

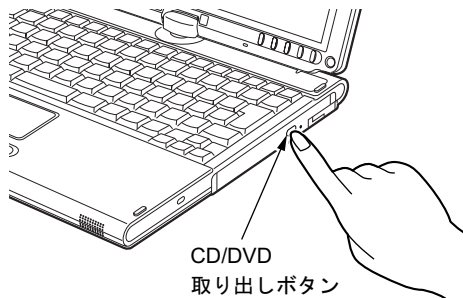
- ▶ ディスクに頻繁にアクセスする場合などは、AC アダプタを取り付けることをお勧めします。バッテリーのみで運用すると、バッテリーの寿命が短くなる場合があります。
- ▶ ディスクをセットする場合は、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチンと音がするようしっかりとめ込んでください。きちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、トレーやドライブ内部、およびディスクを破損する原因となることがあります。
- ▶ セットすると自動で始まるディスクを使用しているときにパソコン本体をスタンバイさせると、レジャーム時にディスクが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、ディスクのアプリケーションを一度すべて終了し、ディスクをセットし直してください。
- ▶ ディスクはデータの読み出しなどの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。これは故障ではありません。

POINT

- ▶ 本パソコン内蔵のユニットは、電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
- ▶ シールを貼ったディスクなど、重心の偏った媒体を使用すると、ユニットに振動が発生し、十分な性能が出ない場合があります。
- ▶ トレーを最後まで押し込めない場合は、カシャッという音がするまでトレーを引き出し、再度押し込んでください。
- ▶ パソコン本体の電源が切れた状態では、トレーが閉まらないことがあります。この場合は、再度電源を入れて、トレーを閉めてください。
- ▶ 何らかの原因で、CD/DVD 取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、「マイコンピュータ」ウィンドウの「CD アイコン」を右クリックして「取り出し」をクリックしてください。
それでも出ない場合は、CD/DVD 取り出しボタンの横の穴にクリップの先などを差し込んで、トレーを引き出してください。
- ▶ ポートリプリケータを取り外し、タブレットモードで使用する場合、ご購入時の設定ではDVD-ROM&CD-R/RW ドライブの動作は無効になっています。詳しくは「富士通タブレットモード」のヘルプをご覧ください。

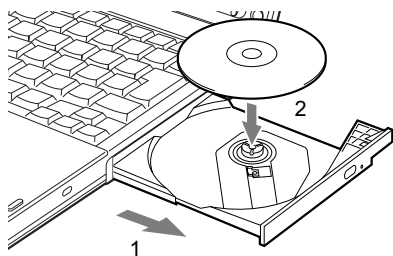
**■ セットする**

- 1** CD/DVD 取り出しボタンを押します。
トレーが少し飛び出します。

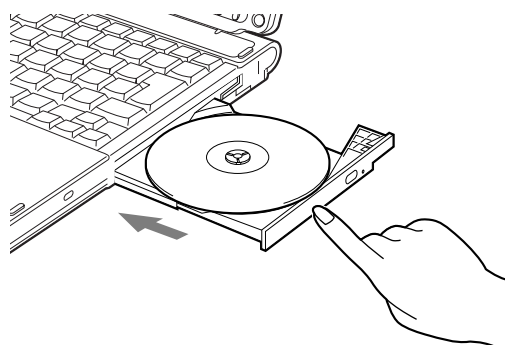


2 トレーを引き出し (1)、ディスクをセットします (2)。

ディスクのレーベル面を上にして、トレイ中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチンと音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、再生できなかつたり、ディスクが取り出せなくなったりすることがあります。



3 トレーを静かに押し込みます。



POINT

- ▶ ディスクをセットしてから使用可能となるまでしばらく時間がかかります。また、マルチセッションディスクの場合、通常のディスクをお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。

■ 取り出す

- 1** ディスクを利用しているアプリケーションを終了し、CD/DVD 取り出しボタンを押します。
トレイが少し飛び出します。
- 2** トレーを手で支えながらディスクを取り出します。
トレイ中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。
- 3** トレーを静かに押し込みます。

10 フロッピーディスクについて

本パソコンには、FDD ユニット (USB) を接続できます。

重要

- ▶ 本パソコンには、FDD ユニット (USB) は添付されておりません。お使いになる場合は、別売の FDD ユニット (USB) をご購入ください。
- ▶ AC アダプタや外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニット (USB) は離して使用してください。

取り扱い上の注意

■ ディスク使用時の注意事項

故障を防ぐため、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください (ドライブにつまる原因になります)。
- 結露させたり、濡らしたりしないでください。
- 本パソコンにフロッピーディスクをセットしたまま持ち運ばないでください。

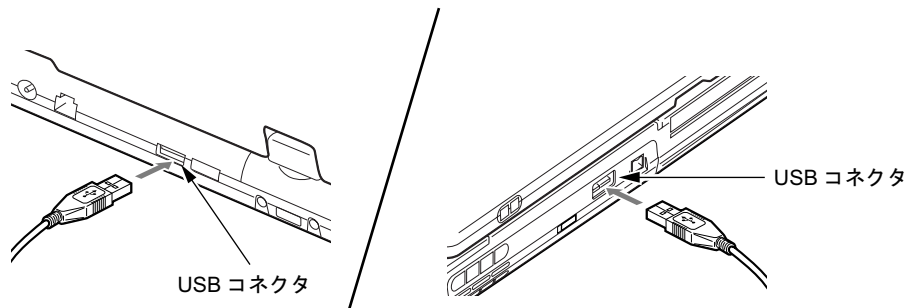
■ FDD ユニット (USB) 使用時の注意事項

- お使いの状況によって、ドライブ名の割り当てが異なることがあります。
 - ・ 本パソコン起動中に接続されているユニット
 - ・ 本パソコン起動中のユニットの取り付け／取り外し

FDD ユニット (USB) の取り付け／取り外し

■ 取り付け

- 1 本パソコンの USB コネクタに FDD ユニット (USB) を接続します。コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



POINT

- ▶ パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。

■ 取り外し

- 1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。
- 2 「Y-E Data USB Floppy - ドライブ (A) を安全に取り外します」をクリックします。

POINT

- ▶ FDD ユニット (USB) を A ドライブとして説明しています。ドライブ名が異なる場合は、お使いの環境に合わせて読み替えてください。

- 3 「Y-E Data USB Floppy は安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたことを確認します。
- 4 FDD ユニット (USB) を取り外します。

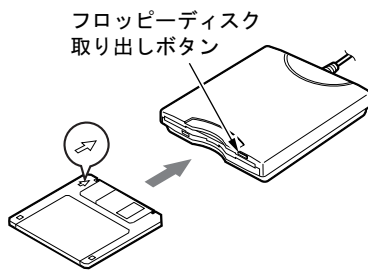
フロッピーディスクをセットする／取り出す

重要

- ▶ 本パソコンには、FDD ユニット（USB）は添付されておられません。
お使いになる場合は、別売の FDD ユニット（USB）をご購入ください。

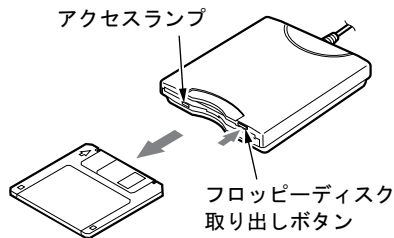
■ セットする

矢印のある面を上向きにして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込みます。



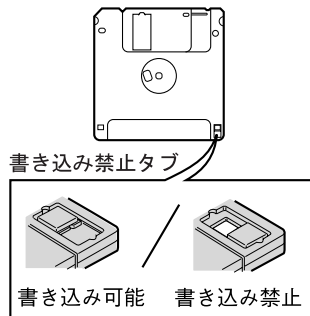
■ 取り出す

アクセスランプが消えていることを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。



POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを使用してください。その他のフロッピーディスクを使用すると、動作が保証されません。
使用できるフロッピーディスクについては、「技術情報」－「本体仕様」(→ P.126)をご覧ください。
- ▶ FDD ユニットのアクセスランプの点灯中にフロッピーディスクを取り出すと、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。
- ▶ フロッピーディスクに保存してある情報を消したくないときや、追加して書き込みたくないときは、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態(書き込み禁止の状態)にします。再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。



11 メモリについて

メモリを取り付ける／取り外す

警告



- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタや周辺機器を取り外してください。スタンバイや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。

感電の原因となります。また、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。



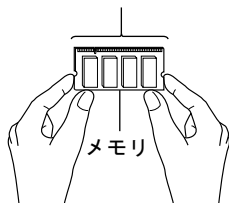
- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様手の届かないところに置いてください。

誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

重要

- ▶ 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジのサイズに合ったプラスのドライバー1番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。
- ▶ 取り付けるメモリは、本パソコンでサポートしているメモリをご使用ください。FMVNM25H (256MB)、FMVNM51H (512MB)、FMVNM1GH (1GB) がお使いになれます。
- ▶ メモリは次図のように両手でふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

この部分には手を触れないでください



POINT

- ▶ 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。
- ▶ メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「メモリスロット」の項目を見ます (→ P.111)。「256MB SDRAM」などと取り付けられたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障、または不良です。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- ▶ パソコン本体の電源を入れる前に必ずメモリを取り付けておいてください。
- ▶ メモリを 2GB などに増やすときは、あらかじめ取り付けられているメモリを取り外して交換する場合があります。

■ メモリを取り付ける**重要**

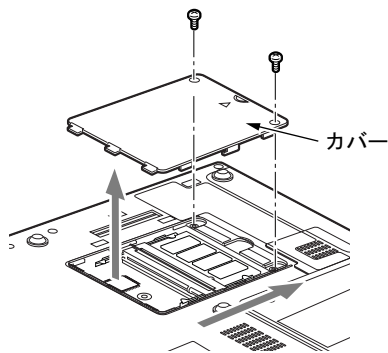
- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 内蔵バッテリーパックを取り外します。

「バッテリーパックを交換する」(→ P.49) の手順 1 ~ 3

2 カバーを取り外します。

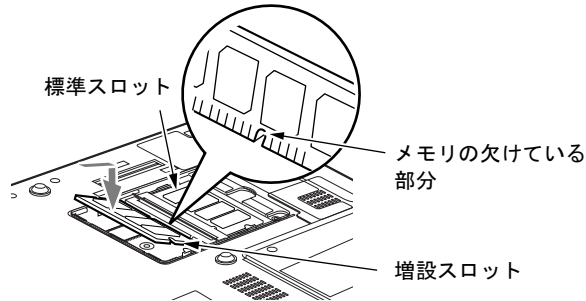
パソコン本体下面のネジ (2ヶ所) を外し、カバーを矢印の方向にスライドさせて取り外します。



3 メモリを取り付けます。

両手でメモリのふちを持ってメモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかり差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。

メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまったことを確認してください。

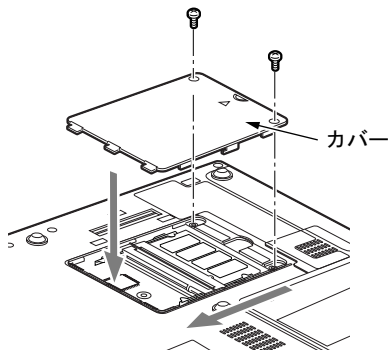


重要

- ▶ 標準スロットと増設スロット以外のスロットには、手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリの取り付けを行う場合は、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。
- ▶ メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。無理にメモリを取り付けようとすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

4 カバーを取り付け、ネジで固定します。

手順 2 で外したカバーを取り付けます。カバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせ、刻印されている矢印と逆の方向にスライドさせてください。



5 内蔵バッテリーパックを取り付けます。

「バッテリーパックを交換する」(→ P.49) の手順 4

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源を切り、メモリを取り付け直してください。

■ メモリを取り外す

重要

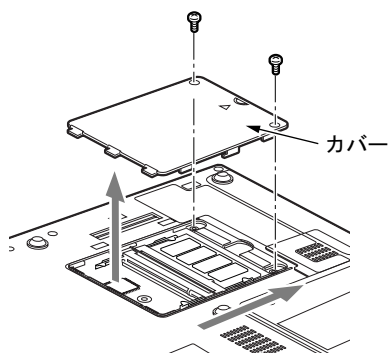
- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 内蔵バッテリーパックを取り外します。

「バッテリーパックを交換する」(→ P.49) の手順 1～3

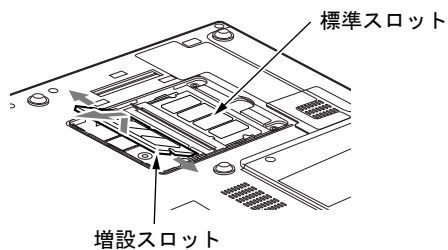
2 カバーを取り外します。

パソコン本体下面のネジ (2ヶ所) を外し、カバーを矢印の方向にスライドさせて取り外します。



3 メモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。

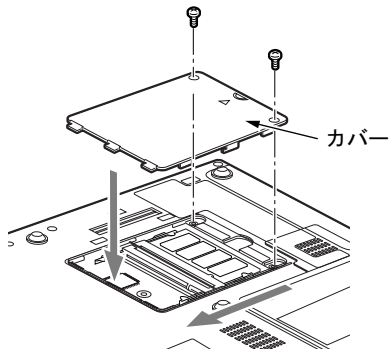


重要

- ▶ 標準スロットと増設スロット以外のスロットには、手を触れないでください。故障の原因となることがあります。

4 カバーを取り付け、ネジで固定します。

手順2で外したカバーを取り付けます。カバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせてください。

**5** 内蔵バッテリーパックを取り付けます。

「バッテリーパックを交換する」(→ P.49) の手順4

POINT

- ▶ メモリを交換する場合は、手順4の後、メモリを取り付けてください。
「メモリを取り付ける」(→ P.70) の手順3

12 PC カードについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

POINT

- ▶ 本パソコンではスマートカードホルダーはお使いになれません。スマートカードをお使いの場合は、パソコン本体のスマートカードスロットをお使いください。
- ▶ 本パソコンでは LAN カード、またはモデムカードが使えない場合があります。
- ▶ 本パソコンでは、3.3Vまたは5Vを使用するPCカードのみサポートしています。12Vを使用するPCカードはサポートしていません。

PC カードをセットする

注意

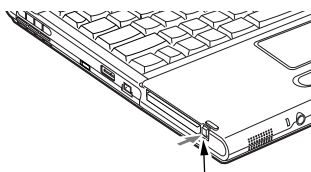


- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。

重要

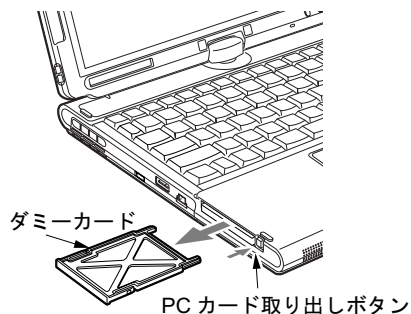
- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- ▶ PC カードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになるPCカードのマニュアルで確認してください。
- ▶ PC カードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになるPCカードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。
- ▶ PC カードやUSB 機器を2つ以上同時に取り付ける場合には、AC アダプタでお使いください。バッテリーでお使いになると、バッテリーが劣化します。

- 1 パソコン本体左側面の PC カード取り出しボタンを押します。
PC カード取り出しボタンが少し飛び出します。



PC カード取り出しボタン

- 2 PC カードスロットからダミーカードを取り出します。
PC カード取り出しボタンを押し、ダミーカードを取り出します。



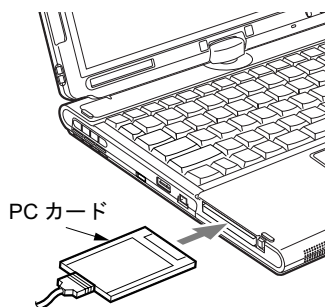
ダミーカード

PC カード取り出しボタン

POINT

- ▶ 取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

- 3 パソコン本体左側面の PC カードスロットに、PC カードをセットします。
PC カードの製品名を上にして PC カードスロットにしっかり差し込みます。



PC カード

重要

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態で PC カードをセットすると、ボタンが中に入らなくなります。また、ボタンが破損する原因となります。
- ▶ コードやケーブルを接続して使う PC カードをお使いの場合、PC カードとコードを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ 本パソコンには PC カードのロック機構がありません。コードやケーブルを接続して使う PC カードは、コードやケーブルを引っ張らないでください。PC カードが抜けるおそれがあります。
- ▶ PC カードの種類によっては、PC カードスロットから PC カードが飛び出した状態でセットされる場合があります。PC カードの飛び出した部分をぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ うまくセットできない場合は、一度 PC カードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。また、お使いになる PC カードのマニュアルもご覧ください。

POINT

- ▶ PC カードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものがあります。アイコンが表示されない場合には、PC カードのマニュアルをご覧ください。

PC カードを取り出す**重要**

- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ▶ コードやケーブルを接続して使う PC カードを取り出す場合、PC カードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PC カードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PC カードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルで確認してください。

注意

- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっていることがあります。PC カードを取り出すときは、手順 3 の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。**POINT**

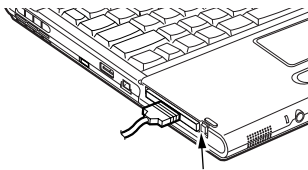
- ▶ 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- ▶ PC カードによっては、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、PC カードのマニュアルをご覧ください。

2 「[PC カード] を安全に取り外します」をクリックします。**POINT**

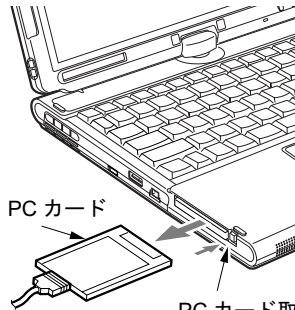
- ▶ 「[PC カード]」には、お使いの PC カードの名称が表示されます。
- ▶ 「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、しばらくしてから、もう一度手順 1 からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。**4** PC カード取り出しボタンを押します。

PC カード取り出しボタンを軽く一回押すと、ボタンが少し飛び出ます。



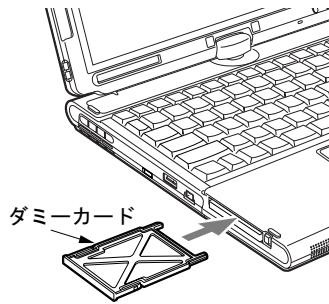
PC カード取り出しボタン

5 飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。

PC カード取り出しボタン

6 ダミーカードをセットします。

ダミーカードを PC カードスロットにしっかり差し込みます。



重要

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。
PC カード取り出しボタンが飛び出した状態でお使いになると、ボタンが破損する原因となります。

13 メモリーカードについて

ここでは、本パソコンでお使いになれるメモリーカードの種類や、メモリーカードのセット方法、および取り出し方法について説明しています。

POINT

- ▶ ここでは、SD メモリーカード、およびメモリースティックをまとめて、メモリーカードと呼んでいます。

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、メモリーカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

使用できるメモリーカード

本パソコンで使用できるメモリーカードは次のとおりです。

- SD メモリーカード
- miniSD メモリーカード
- メモリースティック
- メモリースティック（メモリーセレクト機能付）
- メモリースティックデュオ
- マジックゲートメモリースティック
- マジックゲートメモリースティックデュオ
- メモリースティック PRO
- メモリースティック PRO デュオ

POINT

- ▶ すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- ▶ メモリースティックデュオ、マジックゲートメモリースティックデュオまたはメモリースティック PRO デュオをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ずメモリースティックデュオ、マジックゲートメモリースティックデュオまたはメモリースティック PRO デュオをアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、メモリースティックが取り出せなくなることがあります。
- ▶ mini SD カードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ず mini SD カードアダプタにセットしてからお使いください。そのまま挿入すると、mini SD カードが取り出せなくなることがあります。
- ▶ 著作権保護機能には対応していません。
- ▶ マルチメディアカード（MMC）、およびセキュアマルチメディアカードには対応していません。
- ▶ SD IO カードには対応していません。
- ▶ パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しています。
- ▶ メモリーカードや、記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合、Windows 上でフォーマットしないでください。フォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。フォーマットしてしまった場合は、デジタルカメラなどで再度フォーマットしてからお使いください。フォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

メモリーカードをセットする

⚠ 注意



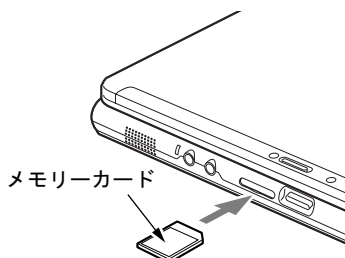
- メモリカードをセットまたは取り出すときは、SDカード／メモリースティックスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

👉 重要

- ▶ メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 パソコン本体前面の SD カード／メモリースティックスロットに、メモリーカードをセットします。

メモリーカードの製品名を上にして SD カード／メモリースティックスロットにしっかり差し込みます。



重要

- ▶ 書き込み禁止の状態のメモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、書き込みエラーメッセージ、または削除エラーメッセージの表示に時間がかかったり、メモリーカードの内容の一部が正しく表示されない場合があります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、もう一度セットし直してください。

POINT

- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されることがあります。「キャンセル」をクリックしてください。

メモリーカードを取り出す

注意

- メモリカードをセットまたは取り出すときは、SD カード／メモリースティックスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

重要

- ▶ メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。**POINT**

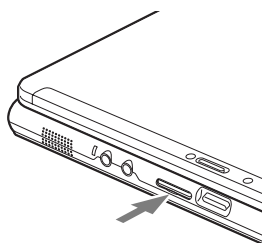
- ▶ 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップしてメモリーカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「[メモリーカード] を安全に取り外します」をクリックします。**POINT**

- ▶ 「[メモリーカード]」には、お使いのメモリーカードの名称が表示されます。
- ▶ 「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、メモリーカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたら、メモリーカードを一度押します。

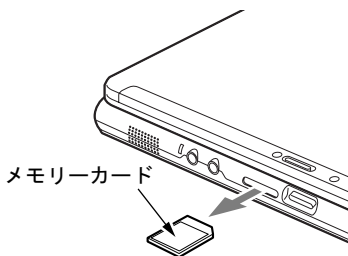
メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。



重要

- ▶ SDカード／メモリースティックスロットからメモリーカードを取り出す場合は、メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり、衝撃で破損したりする恐れがあります。
また、メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。
- ▶ メモリーカードを取り出す場合は、SDカード／メモリースティックスロットを人に向けて、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因となることがあります。

4 メモリーカードを取り出します。



14 スマートカードについて

取り扱い上の注意

重要

- ▶ 本パソコンにはスマートカードが添付されていません。お使いになる場合は、別売のスマートカードをご購入ください。

故障を防ぐため、スマートカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- パソコン本体を持ち運ぶ場合は、スマートカードを取り出しておいてください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

重要

- ▶ セキュリティ機能は完全な本人認証・照合を保証するものではありません。当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる障害に関しても、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ▶ 他のスマートカードリーダー/ライターで作成した、拡張情報の多いスマートカードの読み取りを行うと、ごくまれにスマートカードの機能が停止する場合があります。このような場合、パソコン本体を再起動させてください。再起動後、本パソコンで作成したスマートカードをお使いになるか、拡張情報を減らした形式で作成しなおしたスマートカードをお使いください。
- ▶ スマートカードの作成や、BIOSロック用パスワードを設定せずにBIOSセットアップの「セキュリティ」メニューで「スマートカードによるロック」を「使用する」に設定した場合、BIOSセットアップの起動、またはOSの起動ができなくなります。スマートカードの作成や、BIOSロック用パスワードを設定せずに「使用する」に設定してしまった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- ▶ パソコン本体の修理・保守を依頼される場合は、BIOSロック用パスワードを解除しておいてください。BIOSロック用パスワードが解除されていない場合は、修理・保守などができない場合があります。

POINT

- ▶ スタンバイや休止状態からレジューム後、もう一度スタンバイや休止状態を行う場合は、しばらく（30秒程度）待ってから操作してください。

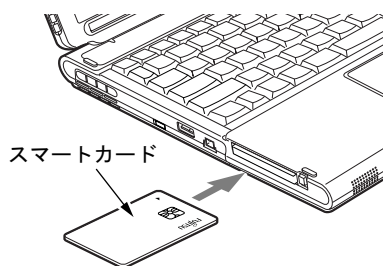
スマートカードをセットする

重要

- ▶ スマートカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。スマートカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- ▶ スマートカードスロットからスマートカードが飛び出した状態でセットされます。スマートカードの飛び出した部分をぶつけないでください。破損の原因となります。

1 パソコン本体左側面のスマートカードスロットに、スマートカードをセットします。

スマートカードのICチップ面を上にして、奥までゆっくり差し込みます。



スマートカードを取り出す

⚠ 注意

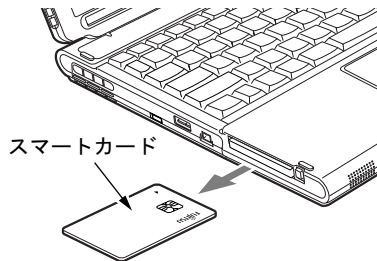


- スマートカードが高温になっている場合があります。スマートカードを取り出すときは、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

👉 重要

- ▶ スマートカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留まった静電気により破壊される場合があります。スマートカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- ▶ スマートカードにアクセス中は、スマートカードを取り外さないでください。

1 パソコン本体からスマートカードを取り出します。



スマートカードによるロックの設定

次の手順に従って、BIOS の設定を変更してください。

■ 注意事項

- BIOS の設定を変更する前に、スマートカードに BIOS ロック用パスワードを登録してください。
- 登録方法は、「ドライバーズディスク」にあるオンラインマニュアル ([¥app¥sabase¥sccert¥manbase¥index.htm](#)) の「第 11 章 スマートカードを管理する」の「11.1.3 BIOS ロック用パスワードを登録する」をご覧ください。
BIOS ロック用パスワードを登録せずに本設定を行うと、本パソコンが起動できなくなります。
- BIOS ロック用パスワードで使用できる文字は、半角英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) のみ、8 文字以内です。半角英数字以外の文字をお使いになったり、8 文字を超えるパスワードを設定すると、本パソコンが起動できなくなります。なお、スマートカードには大文字と小文字が区別して記録されますが、BIOS では大文字と小文字は区別されません。半角英数字以外の文字をお使いになると、本パソコンが起動できなくなります。
- BIOS ロック用パスワードは、1 枚のカードに 1 つのパスワードしか設定できません。BIOS でロックをかけるスマートカードは、利用者がオンラインマニュアルに従って作成してください。また、複数のスマートカードをお使いになる場合、管理者用スマートカードを作成してから、ユーザ用スマートカードを作成してください。

POINT

- ▶ SMARTACCESS/BASE のインストールについては『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」 - 「ソフトウェア一覧」をご覧ください。

■ 設定方法

□ スマートカードの作成

「ドライバーズディスク」にあるオンラインマニュアル ([¥app¥sabase¥sccert¥manbase¥index.htm](#)) を参照し、管理者用およびユーザー用スマートカードを作成します。スマートカードの作成は、管理者用を作成したあと、ユーザー用を作成してください。

□ 本パソコン側の設定

本パソコンに、スマートカードを作成したときに登録したパスワードを登録します。

- 1** 本パソコンを再起動します。
- 2** 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「[Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F12] Boot Menu」と表示されている間に、【F2】キーを押します。
BIOS セットアップ画面が表示されます。

- 3** 「セキュリティ」－「管理者用パスワード設定」の順に選択し、あらかじめ管理者用スマートカードに登録した BIOS ロック用パスワードと同じパスワードを設定します。

設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.113) をご覧ください。

重要

- ▶ 必ず、管理者用スマートカードを作成したときに設定したパスワードと同じパスワードであることを確認してください。管理者用パスワードの設定に失敗すると、本パソコンが起動できなくなります。

- 4** 「ユーザー用パスワード設定」を選択し、ユーザー用スマートカードに登録された BIOS ロック用パスワードと同じパスワードを設定します。

設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.113) をご覧ください。

- 5** 次の設定を変更します。

- ・「セキュリティ」－「スマートカードによるロック」: 使用する
- ・「セキュリティ」－「起動時のパスワード」

利用状況に合わせて設定します。

- 6** 「終了」－「変更を保存して終了する」を実行します。

本パソコンが再起動します。

■ パスワードの変更

重要

- ▶ パスワードを変更する場合は、必ず次の手順で行ってください。手順どおりに行わないと、本パソコンが使用できなくなります。

- 1** 本パソコンを再起動します。

- 2** 管理者用スマートカードを利用して、BIOS セットアップ画面を表示します。

- 3** 次の設定を変更します。

- ・「セキュリティ」－「スマートカードによるロック」: 使用しない

- 4** 「終了」－「変更を保存して終了する」を実行します。

本パソコンが再起動します。

- 5** Windows にログオンしてから、アプリケーションで管理者用スマートカード、またはユーザー用スマートカードの BIOS ロック用パスワードを変更します。

変更方法は、「ドライバズディスク」にあるオンラインマニュアル (¥app¥sabase¥sccert¥manbase¥index.htm) をご覧ください。

- 6** 本パソコンを再起動します。

- 7** 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「[Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F12] Boot Menu」と表示されている間に、【F2】キーを押します。

パスワードが要求されます。

- 8** 管理者用パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

- 9** スマートカードに登録した BIOS ロック用パスワードと同じパスワードを設定します。

管理者用スマートカードを変更した場合、管理者用スマートカードに登録したパスワードと同じパスワードを、管理者用パスワードに設定します。また、ユーザー用スマートカードを変更した場合、ユーザー用スマートカードに登録したパスワードと同じパスワードを、ユーザー用パスワードに設定します。

設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.113)をご覧ください。

- 10** 「終了」－「変更を保存して終了する」を実行します。

本パソコンが再起動します。

- 11** 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「[Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F12] Boot Menu」と表示されている間に、【F2】キーを押します。

パスワードが要求されます。

- 12** 管理者用パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

- 13** 次の設定を変更してください。

・「セキュリティ」－「スマートカードによるロック」: 使用する

- 14** 「終了」－「変更を保存して終了する」を実行します。

本パソコンが再起動します。

■ パスワード設定後のパソコンの起動

スマートカードによるロックを設定した場合、BIOS のパスワード入力画面ではなく、スマートカードの PIN 入力画面が表示されます。

スマートカードのPINを入力してください。[]

正しい PIN が入力されると、スマートカードに登録された BIOS ロック用パスワードと、BIOS セットアップで設定したパスワードが照合され、両方が一致した場合のみ本パソコンが起動します。

PIN 入力画面は、次の場合に表示されます。

・ BIOS セットアップの起動時

- ・ OS の起動時

POINT

- ▶ OS の起動時に PIN 入力画面を表示するには、BIOS セットアップの「起動時のパスワード」の項目を「最初のみ」または「毎回」に設定してください。

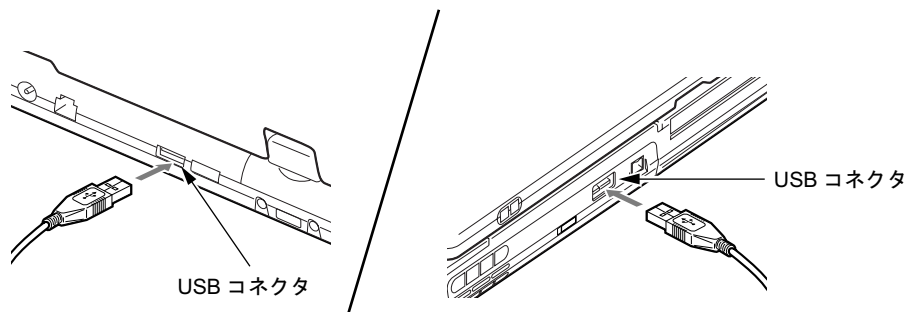
15 プリンタについて

重要

- ▶ プリンタの接続にはプリンタケーブルが必要です。プリンタケーブルは、プリンタに添付されていないことがあります。
また、添付されているものも、コネクタの形状により接続できない場合もあります。そのような場合は、接続できるプリンタケーブルを別にお買い求めください。
- ▶ プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルをご覧ください。

接続について

■ USB コネクタの場合



16 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンは、プロジェクタやアナログディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。

⚠ 警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意



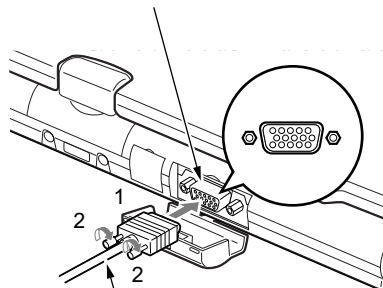
- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

■ アナログディスプレイを接続する場合

ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

- 1** パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。
- 2** パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタ（アナログ）に、ディスプレイケーブルを接続します。
コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み（1）、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します（2）。

外部ディスプレイコネクタ（アナログ）



ディスプレイケーブル

POINT

- ▶ 外部ディスプレイは、ポトリプリケーターの外部ディスプレイコネクタに接続することもできます。ただし、ポトリプリケーター接続時には、パソコン本体の外部ディスプレイコネクタはお使いになれません。
- ▶ ポトリプリケーター接続時には、必ずパソコン本体の外部ディスプレイコネクタからディスプレイケーブルを取り外してください。破損の原因となります。

3 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

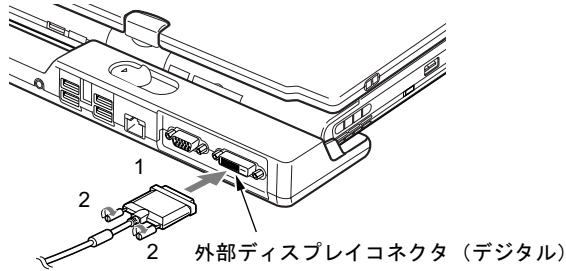
- ▶ 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される
この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。
- ▶ 外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニットは離して使用してください。

6 画面の表示を切り替えます。

【Fn】 + 【F10】 キーを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で画面表示を切り替えることができます。また、OS の「画面のプロパティ」でも切り替えることができます (→『ソフトウェアガイド』の「機能」 - 「表示装置の切り替え」)。

■ デジタルディスプレイを接続する場合

- 1 パソコン本体に、ポータリプリケーターを取り付けます (→ P.56)。
- 2 ポータリプリケーター背面の外部ディスプレイコネクタ (デジタル) に、ディスプレイケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み (1)、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します (2)。



- 3 デジタルディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
接続方法は、デジタルディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 デジタルディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。
- 5 ポータリプリケーターに AC アダプターを取り付け、電源を入れます。

POINT

- ▶ デジタルディスプレイを接続後、パソコン本体の電源を入れると、次のようになります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイとデジタルディスプレイで同時に表示される。
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される。
この場合は、画面の指示に従ってデジタルディスプレイのドライバをインストールしてください。
- 6 画面の表示を切り替えます。
【Fn】 + 【F10】 キーを押すと、液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順で表示を切り替えることができます。また、OS の「画面のプロパティ」でも切り替えることができます (→『ソフトウェアガイド』の「機能」 - 「表示装置の切り替え」)。

17 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しついたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ▶ 液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、液晶ディスプレイのコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間のホコリなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。なお、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

マウスのお手入れ

重要

- ▶ 本パソコンには、USB マウスは添付されておられません。
お使いになる場合は、別売の USB マウスをご購入ください。

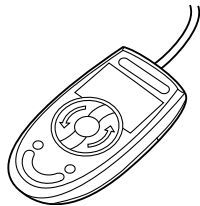
表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、マウス本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

また、USB マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。なお、お使いのマウスにより形状が異なります。

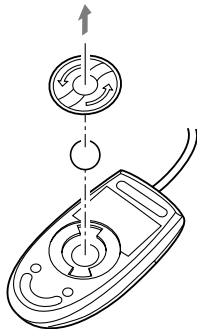
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



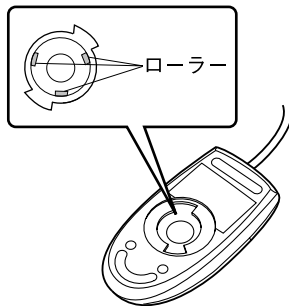
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、水洗いして十分に乾燥させます。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。ローラーは、綿棒で拭きます。



4 ボール、裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分に乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

重要

▶ 本パソコンには、FDD ユニット（USB）は添付されておられません。

お使いになる場合は、別売の FDD ユニット（USB）をご購入ください。

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3ヶ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

■ 用意するもの

商品名：クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

クリーニングフロッピーマイクロは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

■ お手入れのしかた

- 1 クリーニングフロッピーをセットします。
- 2 デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「3.5 インチ FD (A:)」をクリックします。
フロッピーディスクドライブのクリーニングが開始されます。
- 4 「ドライブAのディスクはフォーマットされていません。今すぐフォーマットしますか？」のメッセージが表示されたら、「いいえ」をクリックします。
- 5 フロッピーディスクへのアクセスが終了したことを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 6 「マイコンピュータ」ウィンドウを閉じます。

Memo

第 3 章

BIOS

3

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。

1	BIOS セットアップとは	100
2	BIOS セットアップの操作のしかた	101
3	メニュー詳細	105
4	BIOS のパスワード機能を使う	113
5	BIOS が表示するメッセージ一覧	118

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断 (POST) で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.101）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断 (POST)
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」(POST: Power On Self Test) といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示LCDのハードディスクアクセス表示が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「[Esc]Diagnostic Screen, [F2]BIOS Setup, [F12]Boot Menu」と表示されている間に、【F2】キーを押してください。

BIOS セットアップの操作のしかたが表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

メニューバー

メニューの名称が表示されます。

カーソル

設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ

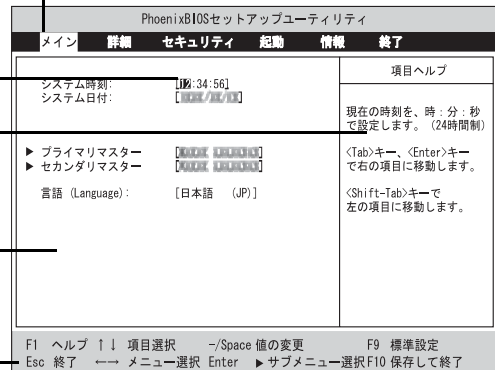
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド

各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。



POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく OS が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ▶ 手順 3 で【F12】キーを押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、〈BIOS セットアップを起動〉を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

起動メニュー	
1.	+フロッピーディスクドライブ
2.	+ハードディスクドライブ
3.	CD-ROMドライブ
4.	ネットワーク起動
	<BIOSセットアップを起動>

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

- 1** 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2** 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3** 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4** 設定を保存して終了します。
「BIOS」－「BIOS セットアップを終了する」(→ P.104)

重要

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT


- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「BIOS」－「終了メニュー」(→ P.111)をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→ 『取扱説明書』)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Pg Up】キー、 【Pg Dn】キー	【Fn】キーと同時に押すことで、メニュー画面が複数ページにわたる場合は、前ページ、または次ページに移動します。
【Home】キー、【End】キー	【Fn】キーと同時に押すことで、メニュー画面の最初の項目、または最後の項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。
【Alt】 + 【H】キー	
【F5】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【-】キー	
【F6】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【Space】キー	
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】 + 【X】キー	

POINT

▶ ここでいう【-】キーは  のことです。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。次の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

- 1 【Esc】キーを押します。**
「終了」メニューが表示されます。
- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。**
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
[はい]	[いいえ]

- 3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。**
すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを2～3回押してください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（→ P.111）。
- ▶ いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→ P.111）。
 1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 メニュー詳細

重要

- ▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

- システム時刻
- システム日付
- シリアル ATA ポート 0
- プライマリマスター

POINT

- ▶ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(→ P.111) を実行した直後は、「シリアル ATA ポート 0」、「プライマリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

- タイプ

POINT

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。

- ・ LBA フォーマット

POINT

- ▶ 「LBA フォーマット」は「シリアル ATA ポート 0」の場合で表示されます。

- シリンダ数
- ヘッド数
- セクタ数
 - ・ CHS フォーマット
 - ・ LBA フォーマット

- 合計セクタ
- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- 転送モード
- Ultra DMA モード

POINT

- ▶ 「シリンダ数」、「ヘッド数」、「セクタ数」は、「タイプ」が「自動」で、8.4GB 以下のハードディスクと認識されている場合のみ設定できます。
- ▶ 「シリンダ数」、「ヘッド数」、「セクタ数」は正しく設定してください。間違っていると、正常に動作しなくなります。
- ▶ 「合計セクタ」、「最大容量」は、「タイプ」が「自動」で、ハードディスクと認識されている場合のみ表示されます。

言語 (Language)

POINT

- ▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

赤外線ポート設定

POINT

- ▶ 「I/O アドレス」、「割り込み番号」、「DMA チャンネル」は、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に * が表示されます。

- 赤外線通信ポート
 - ・ モード
 - ・ I/O アドレス
 - ・ 割り込み番号
 - ・ I/O アドレス
 - ・ DMA チャンネル

キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定

ディスプレイ設定

- ディスプレイ

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます（→『ソフトウェアガイド』の「機能」－「表示装置の切り替え」）。

- 全体表示

□ その他の内蔵デバイス設定

- シリアル ATA コントローラ
 - ・ AHCI 設定
- IDE コントローラ
- 内蔵モデム
- 内蔵 LAN デバイス
- 無線 LAN デバイス

□ CPU 設定

- SpeedStep (R) テクノロジー
 - ・ バッテリ運用時
 - ・ AC 運用時
- XD ビット機能

□ USB 設定

- レガシー USB サポート
 - ・ SCSI サブクラスサポート

POINT

- ▶ SCSI サブクラスサポートを使用して、パソコンが起動しなくなった場合は、USB デバイスを取り外して再起動してください。

□ 各種設定

- 電源ボタン
- LAN によるウェイクアップ
- 自動 Save To Disk
- 音量設定

□ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : nnnnnnnn nnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
 - ・ システム起動
- イベントログの消去

- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

管理者用パスワード

ユーザー用パスワード

管理者用パスワード設定

POINT

- ▶ 次の項目は、「スマートカードによるロック」が「使用する」の場合は、設定することができません。
 - ・ 管理者用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数
- ▶ 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数
 - ・ 起動時のパスワード
 - 自動ウェイクアップ時
 - ・ 取外し可能なディスクからの起動
 - ・ BIOS フラッシュメモリへの書き込み
 - ・ スマートカードによるロック
 - ・ ハードディスクセキュリティ
 - ・ 所有者情報
 - ・ セキュリティチップ設定

ユーザー用パスワード設定

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ▶ 本項目はユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードでBIOSセットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

起動時のパスワード

- 自動ウェイクアップ時

- 取外し可能なディスクからの起動
- BIOS フラッシュメモリへの書き込み
- スマートカードによるロック

重要

- ▶ 本項目を「使用する」に設定すると、次の項目が設定できなくなります。
 - ・ 管理者用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数

- ハードディスクセキュリティ

重要

- ▶ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要になります。
- シリアル ATA ポート 0 用パスワード
- プライマリマスター用パスワード
- シリアル ATA ポート 0 用パスワード設定
- プライマリマスター用パスワード設定
- 起動時のパスワード入力

POINT

- ▶ ハードディスクパスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、「起動時のパスワード入力」を「使用しない」に設定してください。

- 所有者情報

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されませんが、選択できません。
- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

- セキュリティチップ設定

- セキュリティチップ

重要

- ▶ 「セキュリティチップ」の設定を有効にするには、BIOS セットアップ終了後に本パソコンの再起動が必要です。「終了」メニューで「変更を保存して終了する」(→ P.111) を選択し、本パソコンを再起動してください。「終了」メニューで「変更を保存する」(→ P.111) を実行しただけで再起動を行わずに電源を切ると、設定が正しく行われません。その場合は、次回起動時にエラーメッセージが表示されます。

- セキュリティチップのクリア

 **POINT**

- ▶ 本項目は、「セキュリティチップ」が「使用する」に設定されている場合にのみ表示され、管理者用パスワードが設定されている場合のみ選択できます。「セキュリティチップ」を「使用しない」から「使用する」に変更した場合、本パソコンを再起動して設定が有効になるまで、本項目は選択できません。

- レジューム時のセキュリティボタン

 **POINT**

- ▶ 本項目は、セキュリティボタンのパスワードを設定している場合にお使いになれます。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

- 高速起動

- 起動時の自己診断画面

- 起動メニュー

 **POINT**

- ▶ 管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。

- ネットワークサーバからの起動

- 起動デバイスの優先順位

- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブ
- CD-ROM ドライブ
- ネットワーク起動

 **POINT**

- ▶ 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。ただし、「ネットワーク起動」は、「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合にのみ表示されます。なお、「ネットワークサーバからの起動」を「使用する」に設定した場合、「ネットワーク起動」の優先順位は、再起動後に設定可能となります。
- ▶ CDから起動するには起動可能なOSの入ったCDが必要となります。再起動前に本パソコンにCDをセットしてください。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

- BIOS 版数
- BIOS 日付
- BIOS 領域
- CPU タイプ
- CPU 速度
- L1 キャッシュ
- L2 キャッシュ
- 全メモリ容量
 - メモリスロット 1 (標準メモリスロット)
 - メモリスロット 2 (増設メモリスロット)

POINT

- ▶ メモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

- 変更を保存して終了する
設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。
- 変更を保存せずに終了する
設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。
- 標準設定値を読み込む
すべての項目を標準設定値にします。
- 変更前の値を読み込む
すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。
- 変更を保存する
変更した内容を CMOS RAM に保存します。

□変更を保存して電源を切る

変更した内容を CMOS RAM に保存して、電源を切ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

設定できるパスワードは次のとおりです。

- 管理者用パスワード
本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
本パソコンのハードディスクを他のユーザーや他のパソコンで使用できないようにするためのパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

- 1** BIOS セットアップを起動します。
「BIOS」－「BIOS セットアップを起動する」(→ P.101)
- 2** 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」(→ P.108)、または「ユーザー用パスワード設定」(→ P.108) を選択して【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3** 8桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」(→ P.108) で設定することができます。

- 4** パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 5** 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。
- 6** 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

■ ハードディスク用パスワードを設定する

- 1** BIOS セットアップを起動します。
「BIOS」－「BIOS セットアップを起動する」(→ P.101)
- 2** 「セキュリティ」メニューで「ハードディスクセキュリティ」(→ P.109) → 「プライマリマスター用パスワード設定」を選択して【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3** 8桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
- 4** パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 5** 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。
- 6** 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

■ パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- BIOS セットアップを起動するとき
- パソコンを起動するとき、休止状態からレジュームするとき
- スタンバイからレジュームするとき

POINT

- ▶ 管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードとハードディスク用パスワードが異なる場合は、それぞれのパスワードの入力が必要になります。

□ BIOS セットアップやパソコンの起動時、休止状態からのレジューム時のパスワード入力

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

□ レジューム時のパスワード入力

パスワードを入力する画面は表示されず、状態表示 LCD に Caps Lock 表示と Scroll Lock 表示が交互に点滅します。この状態では、フラットポイント（マウス）とパスワードを入力する以外のキーボード操作ができません。これらを使えるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワードを入力してください（【Enter】キーは不要です）。ただし、USB マウスなどの USB 機器は、セキュリティの対象外になります。

POINT

- ▶ 正しいパスワードを入力しない限り、キーボードやフラットポイント（マウス）は使用できません。
- ▶ Windows XP の「電源オプションのプロパティ」で、スタンバイや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、スタンバイから回復するときに引き続き Windows のパスワードの入力も必要です。

□ ハードディスク用のパスワード

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにパスワードの入力が必要になります。

POINT

- ▶ ハードディスクパスワード設定後、パスワード入力を求めるウィンドウを表示させたくない場合には、起動時のパスワード入力を「使用しない」に設定してください。
- ・「ハードディスクセキュリティ」（→ P.109）でパスワードを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定したハードディスクセキュリティのパスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。
- ・設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。
ただし、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は1回になります。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用、またはハードディスク用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用、またはハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。保証期間にかかわらず修理は有償となります。

ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、パスワードを忘れてしまうと、修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。

パスワードの管理には充分注意してください。

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードを忘れた場合
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
「BIOS」 - 「BIOS セットアップを起動する」 (→ P.101)
- 2** 「セキュリティ」メニュー (→ P.108) で設定したいパスワードを選択して【Enter】キーを押します。
 - ・管理者用パスワード設定
 - ・ユーザー用パスワード設定
 - ・ハードディスクセキュリティ
 - ・シリアル ATA ポート 0 用パスワード設定
 - ・プライマリマスター用パスワード設定
- 3** 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
- 4** 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 5** 手順 4 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順4からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順4～5で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が0のときだけです。0以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST (→ P.100) 時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

お使いの機種により表示されるメッセージが異なります。機種固有のメッセージについては、メッセージ項目の後に製品名称を表記しています。

POINT

- ▶ メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

- [Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F12] Boot Menu

起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。また、【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面 (→ P.101) が表示されます。

- < F12 > キー : 起動メニュー / < F2 > キー : BIOS セットアップ

起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面 (→ P.101) が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。

- Please Wait... お待ちください ...

BIOS セットアップの起動中に表示されます。

- nnnnM システムメモリテスト完了。

システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。

- nnnnK メモリキャッシュテスト完了。

キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- マウスが初期化されました。

マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、【Esc】キーを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」(→ P.110) の項目を「使用する」に設定してください。

■ エラーメッセージ

- **拡張メモリエラー。アドレス行：nnnn**
 拡張メモリのテスト中に、アドレス nnnn でエラーが発見されたことを示しています。
 メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
 それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **キーボードエラーです。**
 キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボード接続エラーです。**
 キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。
 テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **フロッピーディスク A のエラーです。**
 フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
 もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **ディスクのエラーです。：ハードディスク n**
 ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
 BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **システムタイマーのエラーです。**
 システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**
 リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
 電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。**
 CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
【F2】 キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。**
 前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
 起動途中で電源を切ってしまうたり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は **【F1】** キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は **【F2】** キーを押してください。

- < F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。
起動時の自己診断 (POST) でエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- 日付と時刻の設定を確認してください。
日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- NVRAM データが正しくありません。
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- セキュリティボタン異常
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。
冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- ファンエラー。システムの電源が切れます。
冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- 前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。
前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- 前回の起動中にファンエラーが発生しました。
前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- セキュリティチップ設定エラーです。 - 前回設定値に戻されました。
BIOSセットアップによるセキュリティチップの設定変更でエラーが発生したことを示しています。セキュリティチップの設定は、前回の設定値に戻されます。
正しい手順で設定を行っても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- セキュリティチップ初期化エラーです。
セキュリティチップの初期化でエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- セキュリティチップ MPD ファンクションエラーです。
セキュリティチップ使用時にエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- セキュリティチップ MPD ファンクション実行エラーです。
セキュリティチップ使用時にエラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。

- **セキュリティチップが見つかりません。**
セキュリティチップが見つからなかったことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **NTLDR is missing**
Press any key to restart
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Remove disks or other media.**
Press any key to restart
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Operating system not found**
OSが見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。
- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **PXE-E53:No boot filename received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。
- **PXE-E78:Could not locate boot server**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。

- PXE-E89:Could not download boot image

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。

- PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。

 **POINT**

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元へご連絡ください。

Memo

第4章 技術情報

4

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	126
2 コネクタのピン配列と信号名	130

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		FMV-T8210	
CPU 注1		インテル® Pentium® M プロセッサ 740	
		1.73GHz	
キャッシュメモリ		1次 64KB + 2次 2MB (CPU 内蔵)	
チップセット		インテル® 915GME チップセット	
システムバスクロック		533MHz	
メインメモリ		標準 256MB (PC2-4200 DDR2 SDRAM DIMM) ECC なし 最大 2GB	
拡張メモリスロット		× 2 (空きスロット× 1)	
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵	
	ビデオメモリ	最大 128MB (メインメモリと共用) 注2	
	液晶ディスプレイ注3	12.1 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット	
	解像度/発色数	液晶ディスプレイ表示: 1024 × 768 ドット / 1677 万色注4 外部ディスプレイ表示: 最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示: 1024 × 768 ドット / 1677 万色注4	
フロッピーディスクドライブ		FDD ユニット (USB) (別売) 注5	
ハードディスクドライブ注6		40GB (シリアル ATA/150)	
CD/DVD ドライブ		DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ注7	
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック	
	PCM 録音再生機能	サンプリング 周波数最大 48kHz、16 ビットステレオ、同時録音再生対応	
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート	
	スピーカー	ステレオスピーカー内蔵	
キーボード		OADG 配列準拠 86 キー (Windows キー、アプリケーションキー付)	
ポインティングデバイス		電磁誘導方式、フラットポイント	
タブレットボタン		× 5 (プログラマブル× 2)	
通信機能	モデム	データ: 最大 56kbps (V.92 規格準拠) 注8 / FAX: 最大 14.4kbps	
	LAN	1000BASE-T 注9 / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠	
	ワイヤレス LAN	規格	IEEE802.11a (J52/W52/W53) 準拠、IEEE802.11b 準拠、IEEE802.11g 準拠 (Wi-Fi 準拠) 注10
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式

製品名称		FMV-T8210	
セキュリティ機能	セキュリティボタン	数字ボタン×4 + Enter ボタン	
	指紋センサー	スライド方式、スクロール機能付	
	スマートカード	あり	
	セキュリティチップ	あり	
	盗難防止用ロック取り付け穴	あり	
インターフェース	本体	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 1 スロット (CardBus 対応)
		SD カード/メモリスティック ^{注11}	1 スロット
		スマートカード	1 スロット
		外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン×1
		USB ^{注12}	USB2.0 準拠 × 2 (左側面×1、背面×1)
		IEEE1394	4 ピン×1 (S400)
		モデム ^{注13}	RJ-11 × 1 ^{注8}
		LAN	RJ-45 × 1
		赤外線	IrDA1.1 準拠 (最大 4Mbps) × 1
		オーディオ	マイク：φ3.5mm ミニジャック (入力：100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 1.5kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、ヘッドホン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力：1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)、内蔵マイク (モノラル) × 2
		ポートリプリケータ	専用コネクタ 100 ピン×1
	状態表示	モノクロ液晶、アイコン表示、LED	
	ポートリプリケータ	外部ディスプレイ (アナログ)	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン×1
		外部ディスプレイ (デジタル)	DVI-D24 ピン×1
		USB ^{注12}	USB2.0 準拠×4
		LAN	RJ-45 × 1
		オーディオ	ラインアウト：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック
	電源供給方式	AC アダプタ	入力 AC100V ~ 240V、出力 DC19V (3.15A)
		バッテリー	内蔵バッテリーパック：リチウムイオン 10.8V / 5200mAh 増設バッテリーパック (別売)：リチウムイオン 10.8V / 3800mAh
バッテリー稼働時間 (JEITA 測定法 1.0) ^{注14}		約 4.6 時間 (内蔵バッテリー) 約 7.7 時間 (標準バッテリー + 増設バッテリー)	
バッテリー充電時間 ^{注15}		約 3.2 時間 (内蔵バッテリー) 約 5.9 時間 (標準バッテリー + 増設バッテリー)	
消費電力 ^{注16}		約 16W / 約 60W	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 ^{注17}		S 区分 0.000173	
省エネルギー基準達成率 ^{注18}		AAA	
外形寸法 (突起部含まず)		W293 × D244 × H35.5 ~ 38mm	
質量		約 1.95kg	

製品名称	FMV-T8210
温湿度条件	温度 5～35℃/湿度 20～80%RH (動作時)、 温度 -10～60℃/湿度 20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プレインストール OS	Windows XP Tablet PC Edition 2005 (DirectX 9.0c 対応)
サポート OS 注19	Windows XP Tablet PC Edition 2005 (DirectX 9.0c 対応)

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

- 注1： アプリケーションによってはCPU名表記が異なる場合があります。
- 注2： Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状態によってVRAM容量が変化します。
- 注3： 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります(有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています)。
 - 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
 - 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
 - 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。これは故障ではありません。
- 注4： 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、1677万色で表示されます。
- 注5： フロッピーディスクは、フォーマットした環境(メーカー、機種、ソフトウェア)によっては、データを読み書きできない場合があります。対応メディアは、2HD(1.44MB, 1.2MB)と2DD(720KB)です。なお、1.44MB以外のフォーマットはできません。
- 注6： 容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte換算値です。
- 注7： 各数値は使用上の最大値であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

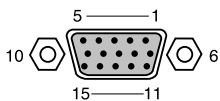
CD-ROM 読出：最大 24 倍速、CD-R 書込：最大 24 倍速 CD-RW 書込/書換：最大 10 倍速、DVD-ROM 読出：最大 8 倍速
--

- 注8： 56000bpsはV.92の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.92の33600bpsを超える通信速度は受信時のみで、送信時は33600bpsが最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。
- 注9：
 - 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
 - 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したHUBが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリ5(カテゴリ5E)以上のLANケーブルを使用してください。
 - 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないHUBでは、Wake up on LAN機能はご使用になれません。
- 注10： Wi-Fi 準拠とは、ワイヤレス LAN の相互接続性を保障する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注11：
 - SDメモリーカードとメモリスティックの同時使用はできません。
 - すべてのSDメモリーカード/メモリスティックの動作を保証するものではありません。
 - 著作権保護機能には対応していません。
 - マルチメディアカード(MMC)やセキュアマルチメディアカードには対応していません。
 - miniSDメモリーカードやメモリスティック Duo /メモリスティック PRO Duoをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ずminiSDメモリーカードをminiSDメモリーカードアダプタに、メモリスティック Duo /メモリスティック PRO Duoをメモリスティック Duoアダプタにセットしてからお使いください。
- 注12：
 - すべてのUSB規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
 - 外部から電源を取らないUSB機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。詳しくはUSB機器のマニュアルをご覧ください。
- 注13： 本パソコンは、電気通信事業法による技術基準適合認定を取得しています。
回線認定番号：D05-0191005、L05-0013005
- 注14： 社団法人電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリー動作時間測定法 (Ver1.0)」(<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。
- 注15： 電源 OFF またはスタンバイ時。装置の動作状況により、充電時間が長くなる場合があります。

- 注 16: ・ 動作時の最小消費電力 (Windows 起動直後の消費電力) / 最大消費電力です。
また、AC アダプタ運用時の消費電力です。
- ・ 電源 OFF 時の消費電力は、約 1W 以下 (満充電時) です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 17: スタンバイ時 (充電なし。AC アダプタを含む)。なお、エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 注 18: 省エネルギー基準達成率の各製品欄にあるアルファベットは「A は 100%以上、AA は 200%以上、AAA は 500%以上」に達していることを示します。
- 注 19: プレインストール OS のみサポートします。

2 コネクタのピン配列と信号名

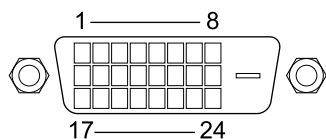
■ 外部ディスプレイコネクタ（アナログ）（ミニ D-SUB15 ピン、メス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5～8	GND	—	グラウンド
9	+5V	—	電源 ^注
10	GND	—	グラウンド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

注：MAX 300mA

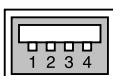
■ 外部ディスプレイコネクタ（デジタル）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル 2-
2	TX2+	出力	データチャンネル 2+
3	TX2/4 Shield	—	グラウンド
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	DDC Clock	入出力	DDC クロック
7	DDC Data	入出力	DDC データ
8	NC	—	未接続
9	TX1-	出力	データチャンネル 1-
10	TX1+	出力	データチャンネル 1+
11	TX1/3 Shield	—	グラウンド
12	NC	—	未接続

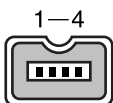
ピン番号	信号名	方向	説明
13	NC	—	未接続
14	+5V	—	電源
15	GND	—	グラウンド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル 0-
18	TX0+	出力	データチャンネル 0+
19	TX0/5 Shield	—	グラウンド
20	NC	—	未接続
21	NC	—	未接続
22	TXC Shield	—	グラウンド
23	TXC+	出力	データクロック +
24	TXC-	出力	データクロック -

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

■ IEEE1394 端子



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TPB -	入出力	- データ信号
2	TPB +	入出力	+ データ信号
3	TPA -	入出力	- データ信号
4	TPA +	入出力	+ データ信号

Memo

索引

A

AC アダプタ表示..... 22

B

BIOS セットアップ..... 100
 -各キーの役割..... 103
 -起動する..... 101
 -終了する..... 104
 -設定を変更する..... 102
 BIOS セットアップの操作のしかた.. 101
 BIOS のパスワード機能を使う..... 113

C

Caps Lock 表示..... 23
 CD/DVD..... 58

D

DC-IN コネクタ..... 17, 20
 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ..... 14

F

FDD ユニット (USB)..... 21, 66
 Fn ボタン..... 24

I

IEEE1394 端子..... 16, 131

L

LAN コネクタ..... 18, 20

N

Num Lock 表示..... 23

P

Page Down ボタン..... 24, 25
 Page Up ボタン..... 24, 25
 PC カード..... 74
 PC カードスロット..... 16
 PC カード取り出しボタン..... 16
 POST..... 100

S

Scroll Lock 表示.....23
 SD カード/メモリースティック
 スロット.....12
 SD メモリーカード.....79

U

USB コネクタ.....16, 17, 20, 131

あ行

アクセスランプ.....21
 液晶ディスプレイ.....11
 -お手入れ.....94

か行

外部ディスプレイ.....91
 外部ディスプレイコネクタ.....18, 130
 外部ディスプレイコネクタ
 (アナログ).....20
 外部ディスプレイコネクタ
 (デジタル).....20, 130
 拡張 RAM モジュールスロット.....18
 管理者用パスワード.....113
 キーボード.....11
 -お手入れ.....95
 起動時の自己診断.....100
 起動メニュー.....110
 吸気孔.....18
 コネクタのピン配列と信号名.....130

さ行

指紋センサー.....12
 周辺機器.....30
 終了メニュー.....111
 詳細メニュー.....106
 状態表示 LED.....12, 22
 情報メニュー.....111
 数字ボタン.....26
 スピーカー.....12
 スマートカード.....83
 スマートカードスロット.....16
 赤外線通信ポート.....17
 セキュリティ表示.....23

セキュリティボタン..... 24
 セキュリティメニュー..... 108
 接続コネクタ..... 20, 21

た行

タブレット..... 37
 タブレットボタン..... 11, 24
 テンキーボード..... 43
 テンキーモード..... 42
 電源表示..... 22
 電源ボタン..... 11, 20
 電源ランプ..... 23
 盗難防止用ロック取り付け穴..... 14
 ドラッグ..... 32

な行

内蔵バッテリーパック..... 19
 内蔵マイク..... 10
 内蔵ワイヤレス LAN アンテナ..... 13

は行

ハードディスクアクセス表示..... 23
 ハードディスク用パスワード..... 113
 排気孔..... 15
 パスワード (BIOS)..... 113
 - 削除する..... 117
 - 設定する..... 113
 - 変更する..... 116
 パソコン本体のお手入れ..... 94
 バッテリー..... 44
 - LOW バッテリー状態..... 47
 - 異常表示..... 46
 - 運用する..... 45
 - 交換する..... 49
 - 残量表示..... 46
 - 充電する..... 44
 - 取り扱い上の注意..... 48
 バッテリー残量表示..... 22
 バッテリー充電表示..... 22
 バッテリー装着表示..... 22
 フラットポイント..... 11, 31
 プリンタ..... 90
 フロッピーディスク..... 65
 フロッピーディスクドライブ..... 21
 - お手入れ..... 97
 フロッピーディスク取り出しボタン..... 21
 ベイユニット取り外しレバー..... 14
 ヘッドホン端子..... 12

ペン..... 11
 ペン先の交換方法..... 39
 ペンひも取り付け用穴..... 15
 ポインティングデバイス..... 31
 ポイント..... 32
 ポートリプリケータ..... 56
 - 取り付け..... 56
 - 取り外す..... 57
 ポートリプリケータ取り外しレバー..... 20

ま行

マイク端子..... 12
 マウス..... 33
 - お手入れ..... 95
 右タップ..... 38
 メインメニュー..... 105
 メッセージ (BIOS)..... 118
 メモリ..... 69
 メモリースティック..... 79
 モデムコネクタ..... 17
 モバイルマルチベイ..... 51

や行

ユーザー用パスワード..... 113
 ユニット..... 52
 - 交換する..... 52

ら行

ラインアウト端子..... 20
 ラッチ..... 10
 ローテーションボタン..... 24

わ行

ワイヤレス LAN アンテナ..... 13
 ワイヤレス LAN 表示..... 22
 ワイヤレススイッチ..... 16

FMV-T8210

ハードウェアガイド
B6FH-7231-01-00

発行日 2005年10月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。